

東洋文化研究所紀要 第168冊
平成 27 年 12 月 抜 刷

ハーフィズ・アブラーの歴史編纂事業再考 ——『改訂版集史』を中心に——

大塚 修

ハーフィズ・アブラーの歴史編纂事業再考 ——『改訂版集史』を中心に——

大塚 修

はじめに

ハーフィズ・アブラー Ḥāfiẓ-i Abrū (1430 没) は、ティムール朝 (1370-1507) 初代君主ティムール (在位 1370-1405) と 3 代君主シャー・ルフ (在位 1409-47) に仕えた歴史家で、シャー・ルフおよび彼の王子バーイスングル (1433 没) の庇護下で大規模な歴史編纂事業を行ったことで知られている。ハーフィズ・アブラーの著作に関する文献学的研究を行ったタウアー E. Tauer は、彼の著作として、(1) 『集史続編 *Dhayl-i Jāmi‘ al-Tawārīkh*』, (2) 『勝利の書続編 *Dhayl-i Zafar-nāma-yi Shāmi*』, (3) 『シャー・ルフの歴史 *Tārīkh-i Shāh-rukh*』, (4) 『歴史 *Tārīkh*』 (『地理 *Jughrāfiyā*』), (5) 『選集 *Majmū‘a*』, (6) 『歴史集成 *Majma‘ al-Tawārīkh*』 の 6 著作を紹介している (Tauer 1965: 53-57; Tauer 1971: 57b-58a)。このタウアーが提示した著作の分類は、後に続く主要なハーフィズ・アブラーの著作に関する文献学的研究で採用され (Woods 1987: 96-97; Subtelny & Melville 2003: 507b-509a; 川口 2007: 219), 今日の学界の定説となっている⁽¹⁾。

1 イランやトルコで刊行された研究の中では、(1) 『集史続編』が言及されない場合や、(5) 『選集』に収録されている、ハーフィズ・アブラーが書き下ろした短編の論文が独立した著作として計上される場合があるが (短編の論文の詳細については、本稿第 1 章 2 節 (5) 『選集』を参照), その著作の分類は、実質的にはタウアーが提示したものほとんど変わらない (Bayānī 1350kh(b): 18-61; Mudarrisī Zanjānī

ハーフィズ・アブルーの著作を分類するに際して、タワーは主にロンドンとイスタンブールの図書館に所蔵される手稿本を分析しているが、その際に考察の対象としなかった一つのハーフィズ・アブルーの著作の手稿本がある。それは、トプカプ宮殿博物館付属図書館に所蔵される Hazine 1653 という書架番号を持つ手稿本である (Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1653, 以下「Hazine 1653 手稿本」と略記)⁽²⁾。タワーが取り上げなかったためか、この手稿本は、これまで歴史家の注目をそれほど集めてこなかった。しかしその一方で、Hazine 1653 手稿本に挿入されたイルハーン朝時代 (1256-1357) の写本絵画を扱った美術史家による専論が幾つか存在している (Ettinghausen 1955; Inal 1965)。ただし、当然のことながら、美術史家の関心は写本絵画そのものに向けられ、Hazine 1653 手稿本とは異なり写本絵画が挿入されていない手稿本、あるいは写本絵画が挿入されていてもその絵画の図版が刊行されていない手稿本までは注目されることはなく、ハーフィズ・アブルーの著作の手稿本群の中にどのように Hazine 1653 手稿本が位置づけられるのか、についてはこれまで詳細に検討されてこなかった。もちろん美術史家の研究においても、写本絵画が挿入されている紙葉にあるテキストを比較する目的で、写本絵画が挿入されていない手稿本が参照されることはあったが (例えば、Ghiasian 2015: 877-883)、それはテキストの部分的な利用に留まるものであった。

これまでに、筆者は、イルハーン朝期からティムール朝期にかけてのペルシア語手稿本の文献学的調査を進めてきた。その過程で、この Hazine 1653 手稿本が、タワーが分類した6著作のいずれにも同定できないこと、そして、Hazine 1653 手稿本と同じ内容を含む手稿本がかなりの数存在していることが

1364kh: 8-14; Ḥājj Sayyid Jawādī 1380kh: xvii-xxi; DĪA 1997)。

2 タワーは、自身が作成した手稿本目録「イスタンブールの図書館の歴史ペルシア語手稿本」の中でも、Hazine 1653 手稿本の存在には言及しておらず (Tauer 1931)、その後の研究でもこの手稿本を考察の対象としていない。

明らかになってきている。実は、Hazine 1653 手稿本と同じ系統に属するこれらの手稿本群の存在が想定されてこなかったために、これまでのハーフィズ・アブラーの歴史編纂事業に関する研究では、一部混乱が見られるのが現状である。そこで、本稿では、タワーを始めとするこれまでのハーフィズ・アブラー研究者が十分に調査を行ってこなかった、ロシアとイランの図書館も含む世界各国の図書館に所蔵されるハーフィズ・アブラーの著作の 62 点の手稿本の整理を試みる⁽³⁾。その上で、彼の著作群における Hazine 1653 手稿本の位置づけを明らかにすることで、ハーフィズ・アブラーの歴史編纂事業の中でこれまで見落とされてきた重要な一面を明らかにしたい。

1. ハーフィズ・アブラーの経歴

1-1. 生涯

ハーフィズ・アブラーの著作の手稿本群を検討する前に、まずは彼の生涯と諸著作に関する情報を、同時代史料や現存する手稿本の情報に基づいて整理しておきたい。彼の名前「ハーフィズ・アブラー」というのは通り名で、本名は 'Abd Allāh b. Luṭf Allāh b. 'Abd al-Rashīd al-Bihdādīnī であった。出身地はヘラート⁽⁴⁾。

3 ハーフィズ・アブラーの著作の手稿本の内訳については、本稿第 1 章 2 節 (1)『集史統編』, (2)『勝利の書統編』, (3)『シャー・ルフの歴史』, および (表 2) ~ (表 5) を参照。

4 「ビフダーディーニー Bihdādīnī」というニスバは、バヤーニー Kh. Bayānī が、『選集』に収録される「クルト朝史」の序文に見られる「スィビフダーディニー Sibihdādīnī?」というニスバが、ハーフ近郊のビフダーディーン村 (*Tārikh/Krawulsky*: 37) 出身であることを示すニスバ「ビフダーディーニー」の変形ではないかという仮説を提示して以来 (Bayānī 1319kh), 学界に広く受け入れられてきたものである。ハーフィズ・アブラー自身の著作における自称表現については (表 1) にまとめたが、その中でも、これに一致するニスバは確認できない。しかし、バヤー

ティムールに仕え、1386～88年の三年征戦 (*Zubdat*, Vol. 2: 667)⁽⁵⁾、1392～96年の五年征戦 (*Zubdat*, Vol. 2: 748)、1398～99年のインド遠征 (*Zubdat*, Vol. 2:

ニーが参照しなかったハーフィズ・アブルー直筆の手稿本の跋文中に、「ビフダーディニー Bihdādīnī」というさらに近い表記が見られることから (*HI653*: 148a)、筆者もバヤーニーの仮説が妥当であると考え、これに従うことにする。ところで、この著者直筆の手稿本に見られる「出自はビフダーディーンで、生まれはヘラート al-Bihdādīnī maḥṭidan al-Hirawī mawlidan」という記述に酷似した、「生まれはヘラートで出自はハマダーン al-Hirawī mawlidan wa al-Hamadānī maḥṭidan」という表現が、1470年頃にアブド・アッラッザーク・サマルカンディー ‘Abd al-Razzāq al-Samarqandī により編纂された『両星の上昇 *Maṭla’-i Sa’dayn*』におけるハーフィズ・アブルーに関する説明では見られる (*Maṭla’*, Vol. 2/1: 377)。きちんと論証するためには、刊本だけではなく現存する全ての『両星の上昇』の手稿本を確認する必要があるということは承知しているが、筆者はこの2つの表現が酷似していることから、後者の al-Hamadānī というニスバは字形が似ている前者の al-Bihdādīnī というニスバが、書写の過程で変形して生まれたものではないかという疑いを抱いている。『両星の上昇』を典拠の一つとして編纂されたハーンダミール Khwānd-amīr 著『伝記の伴侶 *Ḥabīb al-Siyar*』(1524年頃)では、ハーフィズ・アブルーがハマダーン育ちであるという記述が確認できるようになり (*Ḥabīb*, Vol. 4: 8)、これに基づき、先行研究でもハーフィズ・アブルーはハマダーンに関係付けられてきた (例えば、Ḥājī Sayyid Jawādī 1380kh: xiv)。もちろん、ヘラート生まれのハーフィズ・アブルーがハマダーンで育ち、「ハマダーニー」というニスバを持つに至ったという可能性は否定できない。しかし、二つの町の地理的な距離、そして何より『両星の上昇』以前に編纂された文献ではこのことに関する言及がない点を考慮すれば、ハーフィズ・アブルーがハマダーン育ちであるという説明は後世に創られたものである可能性も十分に考えられる。なおハーフィズ・アブルーは、他の知識人からは、Shihāb al-Dīn ‘Abd Allāh al-Khwāfī (*Faṣīḥī*, Vol. 3: 1119)、Nūr al-Milla wa al-Dīn Luṭf Allāh (*Maṭla’*, Vol. 2/1: 377)、Nūr al-Dīn Luṭf Allāh (*Maṭla’*, Vol. 1/2: 676; *Ḥabīb*, Vol. 4: 8; *Gulistān*: 30)、Nūr al-Dīn Luṭf Allāh al-Hirawī b. ‘Abd Allāh (*Kashf*, Vol. 2: 951)、Ḥāfiẓ-i Abrū Shāfi’ī Hamadānī (*Majālis*, Vol. 2: 356) など自称表現とは異なる形で呼ばれている。

- 5 この遠征の目撃談として、789年シャウワール月下旬／1387年、イスファハーンにおける虐殺の後に、市壁に沿って築かれた「首の塔」の様子を伝えている。

852), 1399 ~ 1404 年の七年征戦に随行するなど (*Zubdat*, Vol. 2: 912, 916, 953, 1011; *Tārīkh*, Vol. 1: 337-338, 358) ⁽⁶⁾, 常にティムールと行動をとともにしていた ⁽⁷⁾。また、ティムールの趣味であるチェスの相手の一人でもあった (*Zubdat*, Vol. 1: 30-32)。ティムールの死後はシャー・ルフに仕え (*Habīb*, Vol. 4: 8) ⁽⁸⁾, 歴史書の編纂を開始した。この間、シャー・ルフの王子バーイスングルに対しても歴史書を献呈している。833 年シャウワール月 3 日 / 1430 年 6 月 25 日 ⁽⁹⁾ にサルチャム ⁽¹⁰⁾ で没し、ザンジャーンにある神秘主義者アヒー・ファラジュ・ザンジャーニー

6 ハーフィズ・アブラーはこの遠征の際に、オスマン朝 4 代君主バヤジト 1 世 (在位 1389-1402) と面会している。

7 『選集』に収録される「勝利の書統編」には、ティムールに随行していたために、多くの事件を目撃した旨が記されている (*Majmū'a*: 855b)。また『ハーフィズ・アブラーの歴史』には、ハーフィズ・アブラーが訪れた中央アジア、西アジア、インドの町の名前が列挙されている (*Tārīkh*, Vol. 1: 49-50)。

8 『イラン百科』では、ラムトン A. K. S. Lambton の説明 (Lambton 1978: 1) に依拠し、フーズイスターン地方の町ハウイーザの知事を短期間務めたとされている (*Subtelny & Melville* 2003: 507b)。ところが、ラムトンがこの説明の典拠とした『ハーフィズ・アブラーの歴史』の該当箇所には、ハウイーザ知事を務めたのはイスラーム Islām という名前の人物だと記録されている (*Tārīkh/Or1577*: 82a; *Tārīkh*, Vol. 2: 95)。何故ラムトンが、ハーフィズ・アブラーが同職に就いたと読んだのかは分からないが、典拠にその記述が存在しない以上、この説は採用できない。ちなみに、該当箇所にある 795 / 1392/3 年という年には、ハーフィズ・アブラーはティムールの遠征に同行しており、状況証拠もこの説明が成立しないであろうことを示している。

9 834 年シャウワール月 / 1431 年 (*Maṭla'*, Vol. 2/1: 377; *Habīb*, Vol. 4: 8) や 834 / 1430/1 年 (*Kashf*, Vol. 2: 951) という異なる没年を伝える文献もある。

10 スルターニーヤから 18 ファルサングほど離れた町。博物誌『心魂の歓喜 *Nuzhat al-Qulūb*』には、「スルターニーヤからザンジャーンまでは 5 ファルサング。ザンジャーンからアリー・シャー Wazīr Khwāja Tāj al-Dīn 'Alī-shāh が建てたニークパーイの隊商宿までは 6 ファルサング。ニークパーイの隊商宿からサルチャムまでは 7 ファルサング」と具体的な距離が記録されている (*Nuzhat*: 182)。

Akhī Faraj Zanjānī(1065 没)⁽¹¹⁾の墓廟の側に葬られた (*Faṣīḥī*, Vol. 3: 1119)⁽¹²⁾。

表1 ハーフイズ・アプルーの著作に見られる自称表現

Hazine 1653 手稿本「第1部」跋文 (H1653: 148a)	عبد الله بن لطف الله بن عبد الرشيد البهتداني محتدا و الهروي مولدا
Hazine 1653 手稿本「フランク史」跋文 (H1653: 421b)	عبد الله بن لطف الله
(2)『勝利の書続編』跋文 (<i>Dhayl-i Zafar</i> : 120a)	عبد الله بن لطف الله بن عبد الرشيد البهتداني
(3)『シャー・ルフの歴史』序文 (<i>Shāh-rukh</i> : 2b)	عبد لطف الله
(5)『選集』「クルト朝史」序文 (<i>Majmū'a</i> : 653b)	عبد الله بن لطف الله بن عبد الرشيد السبهتداني
(5)『選集』「ラシード史続編」序文 (<i>Majmū'a</i> : 699b)	عبد لطف الله
(5)『選集』「ムザッファル朝史」序文 (<i>Majmū'a</i> : 744b)	عبد الله بن لطف الله
(5)『選集』「勝利の書続編」序文 (<i>Majmū'a</i> : 855b)	عبد الله بن لطف الله بن عبد الرشيد
(5)『選集』「シャー・ルフの歴史」序文 (<i>Majmū'a</i> : 860b)	عبد لطف الله
(6)『歴史集成』第2巻序文 (<i>Majma'/A3353</i> : 428b)	عبد لطف الله

* ハーフイズ・アプルーが自称表現を書き込んでいる著作の現存最古の手稿本を利用して作成。

11 この記述の典拠である『ファスィーフの概要 *Mujmal-i Faṣīḥī*』には、Akhī Abū al-Faraj al-Zanjānī という形で名前が記されている。本稿では、史料中に記載されている人名や書名などの固有名詞の表記は、原則として典拠とした史料の表記を採用しているが、明らかに間違いである場合に限り、史料の表記を訂正し、その旨を注に記した。

12 ハーフイズ・アプルーがバーイスングルの死後、シーラーズに赴き、イブラーヒーム・スルターン(1435没)に仕えたという記録もあるが(*Gulistān*: 30)、ハーフイズ・アプルーの没年1430年はバーイスングルの没年1433年よりも早いいため、この伝承は疑わしい。

1-2. 著作

先行研究で、ハーフィズ・アブールの著作だとされてきたのは次の6著作である。

(1)『集史続編 *Dhayl-i Jāmi‘ al-Tawārīkh*』(執筆年不明)

シャー・ルフの命令で編纂された、イルハーン朝7代君主ガザン(在位 1295-1304)の治世までを対象とするラシード・アッディーン *Rashīd al-Dīn* (1318 没)著『集史 *Jāmi‘ al-Tawārīkh*』の補遺。8, 9代君主のオルジェイト(在位 1304-16)とアブー・サイード(在位 1316-35)の伝記からなる。ただし、序文において著者名は明示されておらず(*Dhayl-i Jāmi‘*: 1b), 著者をハーフィズ・アブールに同定したのは、現代の研究者である。史料的价值については、Melville 1998: 7-8 で簡単に論じられている。現存する手稿本は Istanbul, Nuruosmaniye Library, Ms. 3271 の1点で⁽¹³⁾, 校訂本は未刊行。

(2)『勝利の書続編 *Dhayl-i Zafar-nāma*』(1412 年)

シャー・ルフの命令で編纂された、ニザーム・シャーミー *Nizām al-Dīn Shāmī* の手になるティムールの伝記『勝利の書 *Zafar-nāma*』の補遺。806 年ラマダーン月 14 日／1404 年 3 月 26 日から 807 年シャアバーン月中旬／1405 年に至るティムール最晩年の時期を対象とする伝記。814 年シャウワール月初頭／1412 年にヘラートで編纂された(*Dhayl-i Zafar*: 120a)。現存する手稿本は、828 年シャアバーン月 9 日／1425 年 6 月 26 日にヘラートで書写された

13 ただし、この『集史続編』は、『集史』第1巻「モンゴル史」の補編という形で、15世紀以降に書写された幾つかの手稿本の中に採録されている。現時点で筆者はこの形の手稿本5点の存在を確認している(Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 209; St. Petersburg, Institute of Oriental Manuscripts, Ms. D66; Mashhad, Āstān-e Qods Library, Ms. 4101; London, British Library, Ms. Or. 2885; Tehran, Dā‘erat al-Ma‘āref-e Bozorg-e Eslāmī, Ms. 1260)。なお『集史続編』の史料的价值については、現在別稿を準備中である。

Istanbul, Nuruosmaniye Library, Ms. 3267 の1点で⁽¹⁴⁾、次の校訂が刊行されている。

F. Tauer, “Continuation du *Ẓafarnāma* de Nizāmuddīn Šāmī par Ḥāfiẓ-i Abrū,” *Archiv Orientalní* 6/3, 1934, 429-465.

Ḥāfiẓ-i Abrū, *Dhayl-i Kitāb-i Ẓafar-nāma-yi Nizām al-Dīn Shāmī*, ed. by B. Karīmī, Tehran, 1328kh.

(3) 『シャー・ルフの歴史 *Tārīkh-i Shāh-rukh*』(1413/4 年以降)

シャー・ルフの命令で編纂された、816 / 1413/4 年に至るシャー・ルフ紀。現存する手稿本は、書写年不明の London, British Library, Ms. IO Islamic 171 の1点で、校訂本は未刊行。

(4) 『ハーフィズ・アブルーの歴史 *Tārīkh-i Ḥāfiẓ-i Abrū*』(1420/1 年)

シャー・ルフの命令で編纂された、東は中央アジアから西はマグリブ・アンダルスに至る広範な地域を対象とする2巻本の地理書。先行研究の中には、この著作の題名を『ハーフィズ・アブルーの地理 *Jughrāfiyā-yi Ḥāfiẓ-i Abrū*』とするものも多いが、実際にこの著作の中で確認できる題名は『ハーフィズ・アブルーの歴史 *Tārīkh-i Ḥāfiẓ-i Abrū*』である (*Tārīkh*, Vol. 1: 53)。この題名通り、序文には「歴史の定義」、「歴史学とは」、「歴史学の効用」といった小節が設けられ (*Tārīkh*, Vol. 1: 73-88)、本文中でも、ファールス、キルマーン、ホラーサーンの各地域に関しては、その地域を支配した諸王朝の歴史に関する章が設けられるなど (Krawulsky 1982: 15-16)、歴史事項にも多くの紙幅が割かれている。とは言え、作品全体の構成としては地理書の体裁を取っており、本書を地理書

14 ただし、この手稿本は同じ写字生により書き写された『勝利の書』(1a-114a)と『勝利の書続編』(114b-120a)の合冊本であり、厳密には、『勝利の書続編』という独立した作品の手稿本ではない。

とする評価自体は妥当なものだと言える。しかし、著者が自身の作品に『ハーフィズ・アブールの歴史』という題名を与えている以上、現代の研究者もそれに従うべきだろう⁽¹⁵⁾。

『ハーフィズ・アブールの歴史』編纂の契機となったのは、シャー・ルフに対して「諸王国の諸道と世界の形状の知識に関する1冊のアラビア語の書物」⁽¹⁶⁾が献呈されたことであった。これを受け、ハーフィズ・アブールは、このアラビア語地理書をペルシア語に翻訳し、その上で他の史料の情報や自身が各地で収集した伝聞情報を補足することをシャー・ルフに願い出て、編纂を開始した。序文で挙げられている典拠は、イブン・フルダーズビフ ‘Abd Allāh b. Muḥammad Khurdādhbih⁽¹⁷⁾著『諸王国の諸道 *Masālik al-Mamālik*』、ムハンマド・ブン・ヤフヤー Muḥammad b. Yaḥyā 著『世界の形状 *Ṣuwar al-Aqālīm*』、ムハンマド・バクラーン Muḥammad b. Najīb Bakrān 著『世界の書 *Jahān-nāma*』、ナースイル・フスラウ Nāṣir-i Khusraw 著『旅行記 *Safar-nāma*』、『諸国の典範 *Qānūn al-Buldān*』の5著作 (*Tārīkh*, Vol. 1: 49-50)。序文の執筆開始が817 / 1414/5年で (*Tārīkh*, Vol. 1: 52)、第2巻が完成したのは823 / 1420/1年 (*Tārīkh/F155*: 167b; 川口 2011: 70)。

現存する手稿本は14点で(表2参照)、次の部分校訂が刊行されている。

第1巻: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Jughrāfiyā-yi Ḥāfiẓ-i Abrū*, ed. by Ṣ. Sajjādī, 3 vols., Tehran, 1375kh-1378kh.

第2巻前半部「ホラーサーン地誌」: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Jughrāfiyā-yi Ḥāfiẓ-i Abrū*,

15 この著作の題名については、Krawulsky 1982: 16-18; 川口 2011: 63を参照。

16 先行研究では、このアラビア語地理書の題名は『諸王国の諸道と世界の形状 *Masālik al-Mamālik wa Ṣuwar al-Aqālīm*』だとされるが(例えば Tauer 1971: 57b)、原文は、kitābī ‘arabī dar ma‘rifati masālik al-mamālik wa ṣuwar al-aqālīm となっており、題名だと考えられてきた「諸王国の諸道と世界の形状」という記述は、題名ではなく、「知識 ma‘rifat」にかかる一般名詞であると考えられる。

17 ハーフィズ・アブールは、Khurdād と表記している。

ed. by M. Hirawī, Tehran, 1349kh; *Horāsān zur Timuridenzeit nach dem Tārīḥ-e Ḥāfeẓ-e Abrū*, ed. by D. Krawulsky, Vol. 1, Wiesbaden, 1982⁽¹⁸⁾.

(5)『選集 *Majmū'a*』(1417/8 年)

820 / 1417/8 年 (*Majmū'a*: 2b, 3b, 698b, 699b), シャー・ルフの命令で編纂された、アダムの時代からティムール朝に至る時代を対象とした歴史書の選集 *majmū'a*⁽¹⁹⁾。ハーフィズ・アブルーが当時最も権威のある歴史書だと考えた、『タバリー史翻訳 *Tarjuma-yi Tārīkh-i Muḥammad b. Jarīr al-Ṭabarī*』、『集史 *Jāmi' al-Tawārīkh-i Rashīdī*』、『勝利の書 *Kitāb-i Zafar-nāma*』を核として、この3著作が扱っていない時代の事件については自身で新たに加筆し、1冊にまとめあげたものである (*Majmū'a*: 3b)。シャー・ルフに献呈された現存最古の『選集』の手稿本 (Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Bağdad Köşkü 282)⁽²⁰⁾に基づけば、章構成は次の通りである。

I. 序 (1b-5b), 目次 (6a-6b, 8a-9b, 7a-7b)⁽²¹⁾

18 第2巻の後半部「ホラーサーンの歴史」と「マー・ワラー・アンナフル地誌」の部分の校訂は未だに出版されていないが、後者には、川口2011という邦訳がある。

19 この著作の序文には、「この学問〔歴史〕に関する諸章を含む選集 *majmū'a* を執筆するように命じた」という記述があるのみで (*Majmū'a*: 3b), 題名は明示されていない。『選集 *Majmū'a*』という題名は現代の研究者による通称で、『選集 *Kulliyāt*』とも呼ばれる (Karatay 1961: 52)。

20 シャムサ (巻頭頁の中央に配置されるメダイヨン装飾) の中にシャー・ルフの治世に書写されたことが明記されており (*Majmū'a*: 10a)、かつ別の頁ではシャー・ルフの蔵書印も確認できる (*Majmū'a*: 1a)。

21 目次の頁の順番には混乱が見られ、おそらく最後の1葉分が脱落している。また、この『選集』の序文と目次は、『ハーフィズ・アブルーの歴史』の目次にそのまま転用されているために (*Tārīkh*, Vol. 1: 53-88), 『ハーフィズ・アブルーの歴史』の目次はその実際の内容にそぐわないものとなっている。

II. バルアミー著『タバリー史翻訳』(10a-296a)

III. 「タバリー史続編 *Dhayl-i Tārīkh-i Ṭabarī*」(297a-314b)

818 / 1415/6 年に編纂された『タバリー史翻訳』の補遺。アッバース朝 18 代カリフ、ムクタディル(在位 908-32) から 37 代カリフ、ムスタアシム(在位 1242-58) までを対象とするアッバース朝史。内容はラシード・アッディーン著『集史』からの抜粋(*Majmū'a*: 297b)。

IV. ラシード・アッディーン著『集史』(315a-652b)

第 1 巻「モンゴル史」(315a-515b), 第 2 巻「世界史」(516a-652b)⁽²²⁾

V. 「クルト朝史 *Tārīkh wa Nasab-i Mulūk-i Kurt*」(653a-693a)

VI. 「タガイ・テムル *Ṭaghā-tīmūr*, アミール・ワリー *Amīr Walī*, サルバダール政権 *Sarbadārīya*, アミール・アルゲーン・シャー *Amīr Arghūn-shāh*」(693b-698b)

820 / 1417/8 年(*Majmū'a*: 698b) に『選集』のために書き下ろされた、4 つの主題に関する短編。

VII. 「ラシード史続編 *Dhayl-i Tārīkh-i Rashīdī*」(699a-744a)⁽²³⁾

820 / 1417/8 年(*Majmū'a*: 699b) に編纂された『集史』の補遺で、オルジェ

22 「世界史」の内訳は、「ガズナ朝史」(516a-543a), 「セルジューク朝史」(543b-562b), 「ホラズムシャー朝史」(562b-565b, 後半部欠葉), 「サルグル朝史」(欠葉), 「イスマール派史」(566a-590a), 「オグズ史」(590b-602a), 「中国史」(602a-611b), 「ユダヤ史」(612a-631a), 「フランク史」(631b-640a), 「インド史」(640b-652b)。「ホラズムシャー朝史」後半から「イスマール派史」の前まで頁の脱落が見られる。この脱落部分には、目次に記された章構成(*Majmū'a*: 7b) および 1480/1 年に書写された『選集』の別の手稿本の内容(*Majmū'a*/D919: 598a-602a) から、「サルグル朝史」が入ることが分かる。

23 この著作の題名は本文中には見られないが、『選集』の冒頭の目次では、「ラシード史続編 *Dhayl-i Tārīkh-i Rashīdī*」という題名が見られる(*Majmū'a*: 7b)。現在、この著作は一般的に「集史続編 *Dhayl-i Jāmi' al-Tawārīkh*」と呼ばれているが、対象とする時代はほぼ同じであるが内容の異なるハーフィズ・アブルー第 1 の著作『集史続編』と区別するために、本稿では、この「ラシード史続編」という題名を用いる。

イトの即位から795年シャウワール月19日／1393年8月28日 (*Majmū'a*: 744a) までを対象とする年代記。

VIII. 「ムザッファル朝史 *Tārīkh-i Āl-i Muẓaffar*」 (744b-784b)

『選集』のために書き下ろされた、ムザッファル朝 (1314-93) の歴史。編纂年は不明。

IX. ニザーム・シャーミー著『勝利の書』 (785a-855a)

X. 「勝利の書続編」 (855b-859b)

1412年に編纂された第2の著作『勝利の書続編』が改編を経て組み込まれたもの。

XI. 「シャー・ルフの歴史」 (860a-938a)

1413年以降に編纂された第3の著作『シャー・ルフの歴史』が改編を経て組み込まれたもの。

ハーフィズ・アブルーは『選集』の編纂を命じられる以前より、『勝利の書続編』、『シャー・ルフの歴史』などの歴史書を執筆していた。『選集』を編纂するに際して、これらの自身の著作を改編して組み込んだだけでなく、「タガイ・テムル、アミール・ワリー、サルバダール政権、アミール・アルグーン・シャー」や「ラシード史続編」などを、その内容にあわせて1417/8年に新しく書き下ろしている。

現存する手稿本は6点で(表3参照)、ハーフィズ・アブルー書き下ろしの著作の中からは次の部分校訂が刊行されている。

「クルト朝史」: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Tārīkh-i Salāṭīn-i Kurt*, ed. by M. H. Muḥaddith, Tehran, 1389kh.

「クルト朝史」後半, 「タガイ・テムル, アミール・ワリー, サルバダール政権, アミール・アルグーン・シャー」: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Panj Risāla-yi Tārīkhī*, ed. by F. Tauer, Prague, 1959.

「ラシード史続編」: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Dhayl-i Jāmi‘ al-Tawārīkh-i Rashīdī*, ed. by Kh. Bayānī, Tehran, 1350kh.

「勝利の書続編」: (2)『勝利の書続編』において言及した校訂2点。

(6)『歴史集成 *Majma‘ al-Tawārīkh*』(1427 年)

『選集』は、過去の「名作」をそのまま収録し、それに不足する記事をハーフィズ・アブールが補った、少し悪い言い方をすれば、「つぎはぎ」の普遍史書であった。これとは対照的に、ハーフィズ・アブールが自ら構想し、書き下ろした大部な著作が、シャー・ルフとバーイスングルの命令により編纂が開始され、1427 年に完成した4 巻本⁽²⁴⁾の普遍史書『歴史集成』である⁽²⁵⁾。序文では、ハディースとクルアーン解釈書に加え、①『預言者伝 *Qiṣaṣ al-Anbiyā‘*』, ②『ムハンマド伝 *Siyar al-Nabī*』, ③『タバリー史翻訳 *Tārīkh-i Muḥammad-i Jarīr Ṭabarī*』, ④マスウーディー ‘Alī b. ‘Abd Allāh Mas‘ūd al-Hadhālī 著『黄金の牧場 *Murūj al-Dhahab wa Ma‘ādin al-Jawhar*』, ⑤フィルダウスイー Firdawsī 著『王書 *Shāh-nāma*』, ⑥『ヤミーニー史 *Yamīnī-yi Yamīn*』, ⑦イブン・アスィール 著『完史 *Kāmil al-Tawārīkh-i Athīrī-yi Maṣṣilī*』, ⑧『ペルシア列王伝 *Kitāb al-Mu‘jam fī Āthār Mulūk al-‘Ajam*』, ⑨ザヒール・ニーシャープーリー 著『セルジュークの書 *Saljūq-nāma-yi Ṣāhīrī*』, ⑩ジューズジャーニー 著『ナースィル史話 *Ṭabaqāt-i Nāṣirī-yi Jūzjānī*⁽²⁶⁾』, ⑪『ペルシア列王伝に関する忠告と金言の光 *Anwār al-Mawā‘iz wa al-Ḥikam fī Akhbār Mulūk al-‘Ajam*』, ⑫ジュワイニー

24 『歴史集成』の各巻は全4 巻の「4 分の1」に相当するため、それぞれ「ルブウ rub‘(4 分の1)」と呼ばれている。

25 序文には、シャー・ルフだけではなく、バーイスングルの名前も確認できる (*Majma‘*/A3353: 5a-7a)。この著作中で確認できる最後の日付は、830 年第2 ラビー月 17 日 / 1427 年 2 月 15 日であり (*Zubdat*, Vol. 4: 907), 最終的にこの頃に完成したと考えられる。

26 *Majma‘*/A3353 では、Jūzjānī という字形で表記されている。

‘Aṭā-malik Juwaynī 著『世界征服者の歴史 *Jahān-gushāy*』, ⑬バイダーウィー Qāḍī Nāṣir al-Dīn Abū Sa‘īd⁽²⁷⁾ Bayḍāwī 著『歴史の秩序 *Nizām al-Tawārīkh*』, ⑭ワッサーフ ‘Abd Allāh b. Faḍl Allāh b. Abī Na‘īm Fīrūzābādī 著『ワッサーフ史 *Tārīkh-i Waṣṣāf*』, ⑮ラシード・アッディーン著『集史 *Jāmi‘ al-Tawārīkh-i Rashīdī*』, ⑯ハムド・アッラー・ムスタウフィー Ḥamd Allāh Mustawfī Qazwīnī 著『選史 *Guzīda*』, ⑰『イブン・アミードの歴史 *Tārīkh-i Ibn al-‘Amīd*』という17点の歴史書が典拠として挙げられている (*Majma‘/A3353: 8a*)。

第1巻は、天地創造に始まる預言者とイスラーム以前のベルシアとアラブの諸王の歴史を対象とし、826年ズー・アルカアダ月8日／1423年10月13日頃に編纂された⁽²⁸⁾。第2巻は、第1章「ムハンマド伝」、第2章「正統カリフ史」、第3章「ウマイヤ朝史」、第4章「アッバース朝史」から構成される (*Majma‘/A3353: 429a*)。第2巻には第1巻とは別の序文が付されていて、①ワーキディー Imām Wāqidi, ②タバリー Muḥammad-i Jarīr Ṭabarī, ③イブン・アスィール Ibn Athīr Mawṣilī, ④ムハンマド・ギーリー Muḥammad-i Junayd Gīlī 著『ムハンマド伝 *Siyar al-Nabī*』(イブン・イスハークの書の翻訳 *tarjuma-yi kitāb-i Muḥammad b. Ishāq Muṭṭalibī*), ⑤ムスタグフィリー Imām Mustaghfirī 著『預言者たることの証明 *Dalā’il al-Nubūwa*』, ⑥『イブン・カスィールの歴史 *Tārīkh-i Ibn Kathīr*』, ⑦アブド・アッサラーム・アバルクーヒー ‘Abd al-Salām b. ‘Alī b. al-Ḥusayn al-Abarqūhī 著『預言者伝に関する究極の望み *Nihāyat*

27 *Majma‘/A3353* では、Sa‘d と表記されている。

28 第1巻末尾にあるサーサーン朝最後の君主ヤズドギルドの項に、「本書、特に、本章の執筆年は、ヤズドギルド暦792年デイ月の19日木曜日、すなわちヒジュラ暦826年ズー・アルカアダ月8日である」(*Majma‘/A3353: 424b*)という記述がある。なお、ほとんどの『歴史集成』第1巻の手稿本の序文には、第4巻が完成した「830年」という年記が見られるが (*Majma‘/A3353: 4b*)、「826年」という第1巻が完成した際の年記が確認できる手稿本も残っている (St. Petersburg, National Library, Ms. Dorn 268, この序文の年記については Rosen 1886: 57 n. 2 を参照)。

al-Mas'ūl fī Dirāyat⁽²⁹⁾ *al-Rasūl*』(『ムハンマド伝』の翻訳 *tarjuma-yi Siyar al-Nabī*) という 7 点の典拠が示されている (*Majma' / A3353*: 430a)。執筆年は不明だが、現存最古の『歴史集成』第 2 巻の手稿本の書写年が 829 年シャアバーン月 15 日 / 1426 年 6 月 22 日であるため (*Majma' / G9*: 481b), これ以前には完成していたと考えられる。現存手稿本については、第 1 巻が 5 点、第 2 巻が 5 点、1-2 巻合冊本が 2 点残されているが(表 4 参照)、校訂は未刊行。

続く第 3 巻が扱うのは、ムスリム諸王朝の歴史である。章構成は、第 3 巻の手稿本の中で唯一序文が保存されているイスタンブール手稿本 (Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Mehmed Murād 1465) の頁数に従えば、「序文」(1b-2a), 「ターヒル朝史」(2b), 「サッフアール朝史」(3a-16a), 「サーマーン朝史」(16b-29b), 「ブワイフ朝史」(30a-49a), 「ガズナ朝史」(49b-70a), 「セルジューク朝史」(70b-98a), 「ザンギー朝史」(98b-99b), 「イルデギズ朝史」(99b-101a), 「サルグル朝史」(101a-105b), 「ハザーラスプ朝史」(105b-107a), 「ゲール朝史」(107b-116a), 「シースターンの諸王の歴史」(116a-117a), 「イスマール派史」(117b-142b), 「ホラズムシャー朝史」(143a-164b), 「キルマーン・カラヒタイ史」(164b-181b), 「モンゴル史」(182a-369b) となっている。執筆年は 829 / 1425/6 年 (*Majma' / M1465*: 200b)。第 4 巻は、1335 年(イルハーン朝 9 代君主アブー・サイードの治世の終わり)から 1427 年(ティムール朝 3 代君主シャー・ルフの治世の途中)までを扱った年代記である。この巻には、パトロンであるバーイシングルの名を取って、特別に『バーイシングルの歴史精髓 *Zubdat al-Tawārikh-i Bāysunghurī*』⁽³⁰⁾ という題名が与えられている (*Zubdat*, Vol. 1: 5)⁽³¹⁾。

29 *Majma' / A3353* では、*riwāyat* と表記されている。

30 後世の歴史家の中には、『バーイシングルの歴史精髓』を、第 4 巻だけではなく 4 巻本の普遍史書全体を指す著作名として言及する者もいる (*Maṭla'*, Vol. 1/2: 676; *Ḥabīb*, Vol. 4: 8; *Gulistān*: 30; *Kashf*, Vol. 2: 951)。

31 シャー・ルフに対する賛辞が確認できるのは第 1 巻の序文だけで、第 2 巻と第 3

そのために、この第4巻目は、『歴史集成』という題名ではなく、『バーインスングルの歴史精髓』という題名で呼ばれることもある⁽³²⁾。現存手稿本については、第3巻が3点、第4巻が3点、3-4巻合冊本が2点残されており（表4参照）、次の部分校訂が出版されている。

第3巻「イスマーイール派史」：Ḥāfiẓ-i Abrū, *Majma' al-Tawārīkh al-Sulṭāniya*, ed. by M. Mudarrisī Zanjānī, Tehran, 1364kh.

第4巻：Ḥāfiẓ-i Abrū, *Zubdat al-Tawārīkh*, ed. by S. K. Ḥājī Sayyid Jawādī, 4 vols., Tehran, 1380kh.

以上、これまで知られてきたハーフィズ・アブルーの著作について、研究文献ではなく、可能な限り同時代史料や現存する手稿本の情報に基づき、幾つか新しい知見を加えながらその内容を紹介してきた。ハーフィズ・アブルーは、過去の名作を収集し、それらに欠落している記述を補う作業を行い（(1)『集史統編』, (2)『勝利の書統編』, (3)『シャー・ルフの歴史』, (5)『選集』）、その傍らで、それらの情報を再編集し、自らの構想に基づき大部な地理書（4）『ハーフィズ・アブルーの歴史』と大部な普遍史書（6）『歴史集成』の編纂を行っている。

巻の序文ではバーインスングルに対する賛辞のみしか確認できないことから (*Majma' al-A3353*: 428a; *Majma' al-M1465*: 1b-2a), 『歴史集成』の編纂は主にバーインスングルの庇護の下で進められたと考えられる。

32 『歴史集成』という題名が、ハーフィズ・アブルーの4巻本の普遍史書で確認できる箇所は、第3巻の序文のみである (*Majma' al-M1465*: 1b)。これ以外の同時代史料の用例としては、『ファスィーフの概要』（1442年頃）に、『スルターンの歴史集成 *Majma' al-Tawārīkh-i Sulṭānī*』という表現が確認できる (*Faṣīḥī*, Vol. 3: 1119)。ハーフィズ・アブルー自身は、第3巻と第4巻以外では、その題名に言及していないため、先行研究では、この著作に対して、『歴史集成』、『スルターンの歴史集成』、『バーインスングルの歴史精髓』、『歴史精髓』など、実に様々な題名が与えられてきた。

2. ハーフィズ・アブラーのもう一つの著作

2-1. ペルシア語手稿本日録における『歴史集成』の手稿本

前章で確認したように、『歴史集成』とは、ハーフィズ・アブラー自らが構想し書き下ろした、アダムに始まり、シャー・ルフの治世に終わる4巻本の普遍史書である。その各巻の手稿本、あるいは合冊本(1-2巻合冊本、3-4巻合冊本)の手稿本は、管見の限り20点現存している(表4参照)。ところが、現在刊行されている多くのペルシア語手稿本日録では、しばしばこの20点とは異なる内容の手稿本が『歴史集成』の手稿本として紹介されている。例えば、刊行後40年以上経過した今日でも高く評価されているブレーゲル Yu. E. Bregel のペルシア語文献目録では、21点の『歴史集成』の手稿本が紹介されているが(Bregel 1972, Vol. 1: 346-347)、その中には、実に9点にものぼる『歴史集成』以外の著作の手稿本が含まれている(Hazine 1653 手稿本; Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 160; St. Petersburg, Institute of Oriental Manuscripts, Ms. C802; St. Petersburg, Institute of Oriental Manuscripts, Ms. E5; Tehran, National Museum of Iran, Ms. 3723; Tehran, National Library, Ms. F.92; St. Petersburg, National Library, Ms. PNS57; St. Petersburg, National Library, Ms. PNS58; Tehran, University Library, Ms. Adabīyāt 2b)。この9点のうち最後の1点を除く8点の手稿本は、いずれも同一著作の手稿本であり、その最古の手稿本が、ハーフィズ・アブラーの自筆本とされる Hazine 1653 手稿本なのである⁽³³⁾。次

33 モンザヴィー A. Munzawī の『ペルシア語手稿本日録』においても、Hazine 1653 手稿本と同系統の手稿本や『選集』の手稿本が、『歴史集成』の手稿本として紹介されている(Munzawī n.d.: 4190b-4194a)。また、イランにおいてハーフィズ・アブラーの著作の校訂に携わり、関連する論考を多く著したバヤーニーが紹介する11点の『歴史集成』第1巻の手稿本の中にも、7点の Hazine 1653 手稿本と同系統の手稿本(バ

節以降、この Hazine 1653 手稿本の文献学的考察を通じて、ハーフィズ・アブルーが行った歴史編纂事業に関する新しい視点を呈示したい。

2-2. Hazine 1653 手稿本の書誌学的情報

Hazine 1653 手稿本は、トプカプ宮殿博物館付属図書館のペルシア語手稿本目録では、819 / 1416/7 年に著者であるハーフィズ・アブルー自身がシャー・ルフのために作成した『歴史精髓 *Zubdat al-Tawārikh*』という著作の手稿本であるとされている (Karatay 1961: 38)。本稿第1章2節(6)『歴史集成』で確認したように、厳密に言えば、『歴史精髓』という題名は『歴史集成』第4巻を指すものであるが、しばしば全4巻の『歴史集成』全体を指す題名としても用いられているので、ここでも『歴史集成』と同義で用いられていると考えてよいだろう。ブレーゲルも『歴史集成』の最古の手稿本として Hazine 1653 手稿本を紹介し、「完本、第1巻、829 / 1425 年書写、自筆本、142 の写本絵画、シャー・ルフの図書館に所蔵されていた手稿本」と説明している (Bregel 1972, Vol. 1: 346)。このように、Hazine 1653 手稿本を現存最古の『歴史集成』の手稿本だとする評価は、学界の定説となっている。

ブレーゲルの Hazine 1653 手稿本に対する評価の典拠となったのは、美術史家エッティングハウゼン R. Ettinghausen の同手稿本に関する文献学的研究である (Ettinghausen 1955)⁽³⁴⁾。Hazine 1653 手稿本は、イルハーン朝およびティムール朝時代に描かれた 100 点をこえる写本絵画が挿入されていることもあり、歴史家よりもむしろ美術史家の注目を集めてきた。まずは、エッティングハウゼンの研究に拠りながら、この手稿本の書誌学的情報を整理したい。

ヤーニーのリストにある手稿本①、手稿本②、手稿本③、手稿本④、手稿本⑤、手稿本⑧、手稿本⑪が含まれている (Bayānī 1350kh(b): 35-39)。

34 その後、やはり美術史家であるイナル S. G. Inal が、Hazine 1653 手稿本の写本絵画に関する専論を著している (Inal 1965)。

Hazine 1653 手稿本は葉数 435 葉、紙の大きさ 54.2x37.7cm、書写面の大きさ 31.1x23.2cm、1 頁あたりの行数 35 行という大判の手稿本で、142 点の写本絵画を含む豪華な装飾手稿本である (Ettinghausen 1955: 30)。扉頁のシャムサ装飾の中には、「最も偉大で気高いスルターン、シャー・ルフ・スルターン—彼ノ王権ガ永遠ノモノデアリマスヨウニーの書庫 khizāna のために」という文言が刻まれ、その左下にはシャー・ルフの蔵書印が押されている (H1653: 1a)。さらに、最終章である「インド史」に挿入された王の肖像の写本絵画中にもシャー・ルフの名前が刻まれていることから (H1653: 429b)、シャー・ルフに献呈するために作成された手稿本であることは間違いないだろう。また、この手稿本には、ハーフィズ・アブルーが自身の名前とともに書き入れた、829 年ムハッラム月 6 日 / 1425 年 11 月 18 日、および 829 年シャアバーン月 / 1426 年という 2 つの作成年が確認できる (H1653: 148a, 421b)⁽³⁵⁾。以上の証拠から、Hazine 1653 手稿本が、ハーフィズ・アブルーが筆を執り、シャー・ルフに献呈した手稿本であるという評価は妥当なものであると考えられる。しかし、注意しなければならないのは、エッティングハウゼンも実は指摘しているように、この手稿本が『歴史集成』そのものの手稿本ではないという事実である (Ettinghausen 1955: 43)。

この事実については、Hazine 1653 手稿本の章構成から一目瞭然である (表 6 参照)。簡潔にまとめると、Hazine 1653 手稿本の章構成は、「序文・目次」(1b-6a)、「第 1 部：天地創造に始まる預言者とイスラーム以前のペルシアとアラブの諸王の歴史」(6b-148a)、「第 2 部：ムハンマド伝、正統カリフ史、ウマイヤ朝史、アッバース朝史」(149a-266b)、「ガズナ朝史」(267b-302a)、「セルジューク朝史」(302b-328a)、「ホラズムシャー朝史」(329b-338b)、「サルグル朝史」

35 Hazine 1653 手稿本における、献呈対象者シャー・ルフの名前、および書写年が記載されている箇所の写真は、Ettinghausen 1955: 31-33 に掲載されている。

(339a-341b), 「イスマール派史」(342b-375a), 「オグズ史」(375b-391a), 「中国史」(391b-410a), 「フランク史」(411a-421b), 「インド史」(422b-435b) となっている。このように, Hazine 1653 手稿本には, 「中国史」, 「フランク史」, 「インド史」など, 『歴史集成』には存在しないはずの章が設けられている。それにもかかわらず, Hazine 1653 手稿本を『歴史集成』の手稿本だとする評価は根強く, 時に, 『歴史集成』は, Hazine 1653 手稿本の構成に基づき, 「内容は, アダムから1427年のシャー・ルフの治世までを対象とする普遍史で, 預言者ムハンマドの歴史とともに, 旧約の歴史, イランの歴史, 中国の歴史を扱う」(Lentz & Lowry 1989: 99) と「中国史」を含む普遍史書だと評価されることすらあった。次節では, Hazine 1653 手稿本の序文と『歴史集成』の序文を比較することで, この2つの著作が全く異なるものである点を示したい。

2-3. Hazine 1653 手稿本の序文の検討

Hazine 1653 手稿本の序文の冒頭は, 「物語の書物の始まり, 言葉の総計の集成 āghāz-i kitāb-i dāstān-hā, majmū‘i fadhālik-i bayān-hā」という文言に始まる(H1653: 1b)。これは, 『歴史集成』の序文の「物語の書物の始まり, 言葉の総計の目録 āghāz-i kitāb-i dāstān-hā, fihrist-i fadhālik-i bayān-hā」という冒頭句(Majma‘/A3353: 1b)とは少し異なっている⁽³⁶⁾。序文は, 「神・預言者への賞賛」, 「序」, 「シャー・ルフへの賞賛」, 「執筆の動機」, 「歴史の定義」, 「歴史学とは」, 「歴史学の効用」から構成されている。序文に見られるこれらの小節は, 『歴史集成』に限らず, 『シャー・ルフの歴史』, 『ハーフィズ・アブラーの歴史』, 『選集』といったハーフィズ・アブラーの別の著作にも設けられており, それぞれ

36 この序文の冒頭句は, 『集史』第1巻「モンゴル史」の冒頭句「物語の書物の目次と言葉の会計の総計 fihrist-i kitāb-i dāstān-hā wa fadhālik-i ḥisāb-i bayān-hā」(*Jāmi‘*, Vol. 1: 1) と酷似していることから, それを参照し, その文言を少し書き替えたものだと考えられる。

の著作にふさわしい形に執筆年や執筆の経緯を書き替えながら、繰り返し利用されている⁽³⁷⁾。

その内容について、Hazine 1653 手稿本と『歴史集成』の序文を比較してみると、随所で差異が確認できる。例えば、Hazine 1653 手稿本の序文の執筆年は 828 / 1424/5 年となっており (H1653: 2b)、これは『歴史集成』の序文に見られる完成年よりも 2 年も早い。また、本稿の議論において最も重要な差異が確認できるのが、「執筆の動機」の内容である。前半部にある『歴史集成』執筆の経緯については、ほぼ同じ内容になっているが、その典拠とした文献を挙げている途中から⁽³⁸⁾、完全に異なる内容になっている (表 7 参照)。

その時[『歴史集成』を執筆していた時]、至高なる陛下—神—至高タレーヨ、彼ノ支配権ト王権ヲ永続サセタマエ—は、前半部が失われて dāyī しまっていたラシードの著作 kitāb-i Rashīdī[『集史』のこと]を完全な状態に戻すように命じた。小生は、次のように申し上げた。「本書[『歴史集成』]の第 1 部は、アダム—彼二平安アレ—の時代から預言者様—神ヨ彼二平安ト祝福ヲ与エタマエ—の伝記の最初に至るまでを対象としております。現在書き終わっております本書は、『集史 *Rashīdī*』、『タバリー史 翻訳 *Ṭabarī*』、『完史 *Kāmil*』などの著作を参照したものでありますので、もしも本書から引用するのならば、より良いものとなりましょう」と。陛下は「そうするがよい」とおっしゃられた。かくして、第 1 部は、偉大なる王子[バーイヌグル]の図書館のために書かれたその書物[『歴史集成』]から引用さ

37 これらの小節の内容については、Bayānī 1349kh: 243-254; Bayānī 1350kh (a): 168-173; Tauer 1963 など、断片的にはあるが、翻刻テキストを付した形で紹介されている。

38 Hazine 1653 手稿本の序文で列挙されている典拠は、『預言者伝』、『ムハンマド伝』、『タバリー史 翻訳』、『黄金の牧場』、『王書』の 5 点のみで、『歴史集成』に記載されている、これに続く 12 点の典拠の題名は省略され、「その他 wa ghayr-hum」という語が置かれている。

れたのである。(H1653: 3b)

このように、『歴史集成』の手稿本だと評価されてきた Hazine 1653 手稿本の序文には、『歴史集成』とは全く異なる執筆の経緯が記されている⁽³⁹⁾。『歴史集成』の編纂に取り組んでいたハーフィズ・アブルーに対して、1424/5 年、シャー・ルフは前半部が欠落していた『集史』の修復を依頼した。その際に、ハーフィズ・アブルーは、ただ単純に、その欠落部分を他の『集史』の手稿本から書写してくるのではなく、『集史』以外の文献も典拠として執筆を進めていた自身の著作『歴史集成』の第1巻によって欠落部分を補うという手段を選んだ。つまり、Hazine 1653 手稿本とは、純粋な『歴史集成』の手稿本ではなく、『集史』に『歴史集成』の内容が組み込まれて成立した異なる著作の手稿本なのである⁽⁴⁰⁾。

2-4. Hazine 1653 手稿本における 2 種類の筆跡

Hazine 1653 手稿本の序文で説明される執筆の経緯は、テキストの状態それ自体からも裏付けられる。Hazine 1653 手稿本がハーフィズ・アブルーの自筆本で、作成年が 1426 年であるという点については既に紹介したが、この手稿本には、別の筆跡でこの年以前に記された箇所も含まれている。例えば、「イ

39 『歴史集成』に分類される手稿本の中に異なる序文を持つ手稿本が混ざっている点については、1886 年の時点で、既にローゼン V. Rosen が指摘しており、そのテキストの翻刻も示している (Rosen 1886: 52-111)。この時、ローゼンが参照した手稿本 A、B は Hazine 1653 手稿本と同系統の手稿本 2 点 (St. Petersburg, Institute of Oriental Manuscripts, Ms. C802; St. Petersburg, Institute of Oriental Manuscripts, Ms. E5)、手稿本 C は『歴史集成』の手稿本 (St. Petersburg, National Library, Ms. Dorn 268) に相当する。

40 ハーフィズ・アブルーが『集史』の改訂版を編纂した点については、百科事典や文献目録でも既に指摘されているが (Barthold 1927: 213b; Bregel 1972, Vol. 1: 342)、この改訂版が異なる著作として分類されることはなかった。

スマーイール派史」の跋文には、ハーフィズ・アブルーの筆跡とは異なる筆跡で、「偉大で公正な主人、世界のワズィールたちの王、ラシード・アッディーン Rashīd al-Ḥaqq wa al-Dunyā wa al-Dīn、イスラームとムスリムの柱―神ヨ、彼ノ幸運ヘノ支援ヲ強メタマエーの著作に属するイスマ―イール派とニザール派の歴史が、神―彼ノ名ガ偉大デアリマスヨウーの助力により、僕たるムッターカーイー・ハーフィズ al-'Abd al-Muttakāī al-Ḥāfiẓ の手で 714 年第 2 ジュマードー月下旬 [／ 1314 年] に書写された」(H1653: 375a) と記載されている。この箇所の書写年は 1314 年というイルハーン朝時代のもので、ラシード・アッディーンの名前には、「神ヨ、彼ノ幸運ヘノ支援ヲ強メタマエ」という存命中の人物に用いられる祈願文が付されている。つまり、この箇所は、ハーフィズ・アブルーが Hazine 1653 手稿本を作成する 100 年以上前、ラシード存命中に書写された『集史』の手稿本だということになる。このムッターカーイーという写生字が 1314 年に書写した『集史』の手稿本が多くのが欠落した状態でシャー・ルフの宮廷に伝わり、1426 年にハーフィズ・アブルーがその欠落部分を加筆・修正して完成したのが、Hazine 1653 手稿本なのである。

アテシュ A. Ateş によれば、ハーフィズ・アブルーの筆跡の箇所は、「序文」(1b-6a), 「第 1 部：天地創造に始まる預言者とイスラーム以前のペルシアとアラブの諸王の歴史」(6b-148a), 「第 2 部：ムハンマド伝、正統カリフ史、ウマイヤ朝史、アッバース朝史」の冒頭部と一部 (149a-163b, 220a-226b), 「イスマ―イール派史」冒頭 (342b), 「中国史」(391b-410a), 「フランク史」(411a-421b), 「インド史」(422b-435b) で (Ateş 1999: 24)、これ以外の箇所、「第 2 部：ムハンマド伝、正統カリフ史、ウマイヤ朝史、アッバース朝史」の大部分 (164a-219b, 227a-266b), 「ガズナ朝史」(267b-302a), 「セルジューク朝史」(302b-328a), 「ホラズムシャー朝史」(329b-338b), 「サルグル朝史」(339a-341b), 「イスマ―イール派史」の大部分 (343a-375a), 「オグズ史」(375b-391a) は、1314 年に書写された『集史』の古い手稿本である。Hazine 1653 手稿本の写本絵画に関する研究を行っ

たイナル S. G. Inal もアテシュと同様の解釈を採用しており、これらの部分に挿入された写本絵画 68 点を 1314 年の作品だと断定している (Inal 1965: 45-50)。

また、この手稿本の状態からは、1314 年に書写された『集史』の手稿本から失われていた頁は前半の第 1 部だけではなかったことが明らかとなる。ハーフィズ・アブルーは第 1 部の内容を自身の著作『歴史集成』第 1 巻の内容で補い、第 2 部の一部、「中国史」、「フランク史」、「インド史」などその他の欠落箇所については、おそらく別の『集史』手稿本のテキストを書写して修復したものと考えられる。このように、Hazine 1653 手稿本は、後半部の内容は『集史』第 2 巻「世界史」であり、前半部の内容は『歴史集成』第 1 巻になっている。これこそが、今日までのハーフィズ・アブルーの著作に関する文献学的研究に混乱を招いてきた一因であると考えられる。そして、さらに問題を複雑にしたのは、Hazine 1653 手稿本が例外的な 1 点の手稿本であるというわけではなく、それと同系統の手稿本が複数現存している点であった。

3. 『改訂版集史』

3-1. Hazine 1653 手稿本と同系統の手稿本群

本稿第 2 章 1 節で紹介したように、これまでのペルシア語文献目録では、Hazine 1653 手稿本とそれと同系統の手稿本群は、多くの場合、『歴史集成』の手稿本として紹介されてきた。しかしながら、この手稿本群に属する手稿本は、筆者による手稿本の文献学的調査の結果、少なくとも 19 点現存していることが明らかになっている (表 5 参照)。また、この 19 点以外にも、Hazine 1653 手稿本と同系統の手稿本群に属し、ほぼ同時代に書写されたと考えられる写本絵画入り手稿本が現存しているが、これは、「美術品」として 1 枚ずつ切り取られてしまい、欧米各地の幾つかのコレクションの中に分散して所蔵されている

(Ettinghausen 1955: 36; Inal 1965: 37-38)⁽⁴¹⁾。

これらの手稿本は、その第1部は『歴史集成』第1巻とほぼ同じ内容、第2部以降は『集史』第2巻「世界史」とほぼ同じ内容であるため、手稿本目録の類では、ハーフィズ・アブルー著『歴史集成』あるいはラシード・アッディーン著『集史』の手稿本として分類されてきた⁽⁴²⁾。しかし、Hazine 1653 手稿本と同系統の手稿本には、『集史』を加筆・修正した経緯を記した独自の序文が付されており、何よりも、その手稿本が現在確認できるだけで19点も残されている以上、これを、『歴史集成』あるいは『集史』の例外的な手稿本とするような分類方法は見直す必要があるだろう。もちろん、Hazine 1653 手稿本の文献学的研究を行った美術史家、および一握りの目録編纂者は既にこの手稿本独自の特徴を把握していた。しかし、これと同系統の手稿本の多くが、ロシア、イラン、パキスタンという欧米の研究者にとってアクセスが容易でない国々の図書館に所蔵されていたため、この独自の特徴を共有する手稿本群の存在は見落とされてきたのである⁽⁴³⁾。以上の問題意識から、Hazine 1653 手稿本、およびそれと同系統に属する手稿本を、便宜的に『改訂版集史』と名付け、『歴史集成』とは異なるハーフィズ・アブルー第7の著作として扱うことを提案したい。複雑な

41 Ghiasian 2015: 896-903 において、全部で128点の同じ手稿本から切り取られたと思われる残簡の内容と所蔵機関が紹介されている。筆者はこれ以外に、レザー・アッパースィー博物館（テヘラン）において、写本絵画が挿入されている、ヒジュラ暦38年前後の記事が書かれた残簡を確認している（所蔵番号2815）。

42 各手稿本目録における分類については（表5）に注記した。Hazine 1653 と同系統に属する手稿本群を紹介した目録の中で、その特徴と内容を正確に説明しているのは、Rosen 1886 を参照した Miklukho-Maklai 1975: 51-54 くらいであるが、この目録でも、『集史』の手稿本として分類されている。

43 イラン国立図書館に所蔵される『改訂版集史』の手稿本2点を参照している Ghiasian 2015 においても、これらを内容の異なる『歴史集成』と区別することなく、『歴史集成』の手稿本だと評価している。

ハーフィズ・アブラーの手稿本群をより正確に分類し直すことにより、彼の著作群の全体像を正確に理解することが可能になると考えるからである。この点を考慮すれば、彼の歴史編纂事業は次のように整理し直すことができる。

814年シャウワール月初頭／1412年：『勝利の書続編』完成

816／1413/4年以降：『シャー・ルフの歴史』完成

817／1414/5年：『ハーフィズ・アブラーの歴史』編纂開始

→823／1420/1年完成

820／1417/8年：『選集』完成

826／1422/3年：『歴史集成』第1巻編纂開始

→826年ズー・アルカアダ月8日／1423年10月13日頃完成

828／1424/5年：『改訂版集史』編纂開始

→829年シャアバーン月／1426年以降完成

829／1425/6年：『歴史集成』第3巻完成

830／1426/7年：『歴史集成』全4巻完成

3-2. 『改訂版集史』独自の特徴

イスラーム前史を対象とする『改訂版集史』の第1部は『歴史集成』第1巻の内容に、それ以後は『集史』第2巻「世界史」の内容になっている。つまり、この著作の手稿本の中に、第1部が欠落しているものがあった場合には『集史』第2巻「世界史」の手稿本に分類することしかできないし、第1部しか残存していない手稿本があった場合には、『歴史集成』第1巻の手稿本に分類することしかできない。これこそが、これまでの目録編纂者を混乱させてきた理由の一つである。そこで、本稿を締めくくるにあたり、ハーフィズ・アブラーがHazine 1653手稿本を作成する際に生じた、『改訂版集史』手稿本独自の特徴について幾つか紹介したい。

(1) 序文

本稿第2章3節で紹介したように、『改訂版集史』の編纂に際して、序文が書き替えられている。

(2) フマーイの治世の前後の記事の脱落

Hazine 1653 手稿本の 89 葉目と 90 葉目の間には、1 葉分の欠葉が見られる。『歴史集成』第1巻の内容から判断すると、この欠葉部分は、カヤーン朝君主バフマンの治世の末期からフマーイの即位にかけての記事が入るべき箇所である。ここに入るべき記述は、『歴史集成』第1巻には保存されているが (*Majmaʿ* /A3353: 247b-249b), Hazine 1653 手稿本を祖本とする『改訂版集史』の手稿本群には保存されていない (例えば, *SP160*: 134b-135a)。つまり、「フマーイの治世 *dar dhikr-i pādshāhī-yi Humāy*」という章題が確認できないのも、『改訂版集史』の手稿本群の特徴の一つだということになる⁽⁴⁴⁾。

(3) 第2部表題における『歴史精髓』という題目の不在

『改訂版集史』の第2部はムハンマド以降のイスラーム史になっていて、これ以降は、『集史』第2巻「世界史」の内容になっている。ところで、その『集史』第2巻「世界史」の第2部の章題には、筆者が別稿で明らかにしたように、「『歴史精髓』の第2章 *qism-i duwwum az Zubdat al-Tawārīkh*」という記述が存在している (大塚 2014: 40-41)。これは、『集史』編纂の際に利用された歴史書、カーシャーニー *Abū al-Qāsim Qāshānī* 著『歴史精髓 *Zubdat al-Tawārīkh*』の記述がそ

44 ただし、プリンストン大学美術館に所蔵される Hazine 1653 手稿本と同系統の手稿本の残簡には、まさにこの欠落部分に関する記事が保存されており (Leoni 2009: 62)、今は世界各地に分散してしまっているこの手稿本は、Hazine 1653 手稿本からこの1葉が脱落する前に書写された手稿本群に属すると考えられる。したがって、この箇所は『改訂版集史』の全ての手稿本において欠落しているわけではないが、欠落しているものに関しては、『改訂版集史』の手稿本だと断定することができる。

のまま組み込まれてしまったために生じたテキストの矛盾である。この文言は、『集史』に加筆・修正を行ったハーフィズ・アブラーの目にも奇妙に映ったに違いない。1314年に書写された『集史』の古い手稿本の第2部の冒頭部はちょうど欠落していたため、彼は別の手稿本から書写して補った。その際に、『『歴史精髓』の *az Zubdat al-Tawārīkh*』という部分をそのまま写すことはせずに削除したものと考えられる(H1653: 149a)。『改訂版集史』では、この削除により、『集史』第2巻「世界史」に見られるテキストの矛盾が解消されている。

(4)「ユダヤ史」の不在

『集史』第2巻「世界史」に収録されている「ユダヤ史」が脱落している(表6参照)。Hazine 1653 手稿本のうち「中国史」以降の部分は、ハーフィズ・アブラーが、『集史』第2巻「世界史」の手稿本から書写して補った箇所である。この部分を補う際に、意図的に削除したためか、それとも、たまたま参照した手稿本においてこの章が欠落していたためかは分からないが、『改訂版集史』の手稿本では、例外なく「ユダヤ史」が脱落している。

おわりに

以上、本稿では、ハーフィズ・アブラーの歴史編纂事業とその著作の手稿本62点を、目録や研究文献ではなく、可能な限り同時代史料や現存する手稿本の情報に基づいて整理してきた。以上から導き出された結論、すなわち、先行研究で6著作に分類されてきたハーフィズ・アブラーの手稿本群の中には、『改訂版集史』という性格の異なる著作の手稿本が混在しているという結論は、実は、研究史上何ら目新しいものではない。『歴史集成』と『改訂版集史』の序文の比較については1886年に既にローゼンが翻刻テキストを付しながら丁寧に行っているし、『改訂版集史』の著者自筆本(Hazine 1653 手稿本)の性格につい

では、エッティングハウゼンとイナルという2人の美術史家による専論が存在している。

しかし、ハーフィズ・アブラーの著作の文献学的研究の「権威」であるタワーが、『改訂版集史』の手稿本の検討を行わず、独立した作品として分類しなかったために、タワーの研究に依拠した事典項目の執筆者や文献目録の編纂者は、『改訂版集史』に関するこれらの文献学的研究の成果を参照することはなかった。また、『改訂版集史』の手稿本19点のうち、実に17点がロシア、イラン、パキスタンという欧米の研究者にとってアクセスが容易でない国々の図書館に所蔵されているという研究環境も、ハーフィズ・アブラーの歴史編纂事業における極めて重要な側面が広く認知されてこなかったことの一因となっている。これに加えて、ハーフィズ・アブラーの著作では同じ序文が何度も書き換えられ、再利用されているために、一見しただけでは同一作品だと見誤ってしまうような作品もある。そのために、『選集』、『歴史集成』、『改訂版集史』の手稿本は、しばしば混同されてきたのである。このような背景の下で、「フランク史」や「中国史」の写本絵画が挿入された『改訂版集史』を取り上げて、『歴史集成』には存在するはずのないこれらの章が含まれているのにもかかわらず、『歴史集成』の手稿本とする説明が時になされてきた。また、テキスト校訂の分野でも、『歴史集成』第1巻からの引用である『改訂版集史』Hazine 1653 手稿本の第1部を底本として、『集史』第2巻「世界史」の校訂本が作成されるなど(大塚2014: 26, 注6)、『改訂版集史』という著作の存在が研究者の間で広く共有されていないがために、生じてしまった混乱が現在でも見られる。

本稿において、『改訂版集史』が独立した著作であることを明示し、新しい分類方法に基づいて現存する手稿本群を再整理したことにより、今後、ハーフィズ・アブラーの著作群を利用する際に、無用の混乱を避けることができるようになるだろう。史料を正確に評価することは、史料に基づいて歴史を再構成する歴史家にとって疎かにすることのできない作業であるということは今更言う

までもない。また、本稿は、ハーフィズ・アブルーが自ら構想した普遍史書『歴史集成』の第1-3巻など未だ未校訂のものが多く残る彼の著作群の校訂本作成のための第一歩としても位置づけられる。その中でも、『歴史集成』の校訂および分析は、ティムール朝期以降のペルシア語普遍史叙述の発展を考察する上で、必須の作業であると考えている。さらに、本研究の成果がラシード・アッディーン著『集史』の手稿本研究に寄与することも期待できる。これまで『集史』第2巻「世界史」の手稿本だと考えられてきたものの中には、実は、『改訂版集史』の手稿本も相当数混在している。本稿で分類方法を明示したことにより、今後、両著作の手稿本を正確に分類することが可能になるだろう。『集史』第2巻「世界史」は、その作品がそのまま書き写されるだけでなく、『改訂版集史』という作品に形を変えて、後世に伝えられた。ペルシア語文化圏における歴史叙述や歴史書の受容の問題を論じる上で、『改訂版集史』という著作の存在を想定することは重要な条件の一つとなるだろう。

*本稿は、平和中島財団日本人留学生奨学金、松下幸之助記念財団研究助成、日本学術振興会科学研究費補助金・特別研究員奨励費（課題番号12J10596）、日本学術振興会科学研究費補助金・研究活動スタート支援（課題番号26884016）による研究成果の一部である。

表2～表5の凡例

通し番号	所蔵都市、所蔵図書館、書架番号(典拠):書写年、紙幅(書写面の幅)、1頁あたりの行数、葉数、写字生、書写地、献呈対象者、その他
------	---

*目録に記載されていない情報を筆者が補った場合、その項目の下に下線を引いて明示した。

*筆者が調査した手稿本については、書架番号(典拠)の右上に*をうち明示した。

*一つの手稿本が分散し別々に登録されている場合はそれを一つの手稿本と数えた。

表2 『ハーフィズ・アブールの歴史』 現存手稿本

1	Tashkent, al-Biruni Institute of Oriental Studies, Ms. 4078 (Semenov 1963: 17-21)* : 15 世紀, 33x26cm (22.5x18.5cm), 19 行, <u>150 葉</u> , 著者直筆?
2	Tashkent, al-Biruni Institute of Oriental Studies, Ms. 5361 (Semenov 1963: 21-22)* : 16 世紀, 37x25.5cm (30.3x16.7cm), <u>23 行</u> , 469 葉
3	St. Petersburg, National Library, Ms. Dorn 290 (Dorn 1852: 282-283)* : <u>16 世紀</u> , 32x19cm (23.3x13.1cm), <u>27 行</u> , 327 葉
4	London, British Library, Ms. Or. 9316 (Meredith-Owens 1968: 49)* : 16 世紀, 36x24cm (26x16.1cm), <u>25 行</u> , 503 葉
5	Oxford, Bodleian Library, Ms. Fraser 155 (Ethé 1889: 86)* : <u>16 世紀</u> , <u>25.5x15cm</u> (18x9cm), <u>25 行</u> , 173 葉
6	Qom, Mar'ashi Najafi Library, Ms. 1870 (Ḥusaynī 1355kh: 251-252)* : 1044 年第 1 ラビー月 18 日 / 1634 年 9 月 11 日, 28x18cm (<u>21.2x11cm</u>), <u>20 行</u> , 331 葉
7	Oxford, Bodleian Library, Ms. Elliot 357 (Ethé 1889: 22-24)* : 1044 / 1634/5 年, 28x16.5cm (21.3x10.8cm), <u>20 行</u> , 276 葉
8	London, British Library, Ms. Or. 1577 (Rieu 1879-83, Vol. 1: 421b-424b)* : 1056 年 シャウワール月 13 日 / 1646 年 11 月 22 日, <u>25 行</u> , 384 葉
9	London, British Library, Ms. IO Islamic 3874 (Storey 1972: 133)* : <u>17 世紀 ?</u> , 36x23.5cm (26.8x16.2cm), <u>25 行</u> , <u>362 葉</u>
10	London, British Library, Ms. Or. 1987/1 (Rieu 1879-83, Vol. 3: 991a-991b)* : 1850 年頃, <u>21.5x14cm</u> (16x8.5cm), <u>15 行</u> , 149 葉
11	Tehran, Malek Library, Ms. 4143 (Afshār & Dānish-pazhūh 1352-80kh, Vol. 2: 183-184)* : 1272 年第 1 ジュマダー月 5 日 / 1856 年 1 月 13 日, 33.9x21.7cm, <u>26 行</u> , 347 葉, 写字生 Malik Muḥammad b. Muḥammad Ḥasan Burūjīnī
12	Tehran, Mu'ayyad Thābitī Library (Bayānī 1350kh(b): 58-59) : 1296 / 1878/9 年, 34x25cm
13	Tehran, Golestān Palace Library, Ms. 840 (Ātābāy 2536sh: 122-123)* : 書写年不明, 36x21cm, <u>20 行</u> , 585 葉?
14	Tehran, Majles Library, Ms. 13128 (Sajjādī 1375kh: 35)* : 書写年不明, <u>23 行</u> , <u>239 葉</u>

表3 『選集』 現存手稿本

1	Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Bağdad Köşkü 282 (Tauer 1931: 97-98; Karatay 1961: 51-53)* : 15 世紀前半, 42x32cm (28.5x21.5cm), <u>31 行</u> , 938 葉, 献呈対象者 Shāh-rukh?, 写本絵画有
2	Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Dāmād Ibrāhīm Paşa 919 (Tauer 1931: 98-99)* : 885 年 / 1480/1 年, <u>36.4x25cm</u> (28.8x18.4cm), <u>32 行</u> , 1006 葉, 写字生 Darwīsh Muḥammad Ṭāqī

3	Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 2046 (Blochet 1905-34, Vol. 4: 231-234)* : 1530年, 36x31cm. 31行, 169葉, 書写地タブリーズ *「ラシード史統編」, 「ムザッファル朝史」, 『勝利の書』, 「勝利の書統編」のみ
4	Tehran, University Library, Ms. Adabīyāt 1b & 2b (Dānish-pazhūh 1339kh: 280, 414)* : 11 / 17世紀, 42x31cm (28.5x21cm), 21行, 408葉 *「ラシード史統編」, 『勝利の書』, 「勝利の書統編」, 『集史』, 「シャー・ルフの歴史」のみ
5	Tehran, Malek Library, Ms. 4164 (Afshār & Dānish-pazhūh 1352-80kh, Vol. 7: 222)* : 1271年ラマダーン月 / 1855年, 41.9x26.5cm, 43行, 324葉, 写字生 Muḥammad Mahdī Āqā Bābā Shahmīrzādī, 旧 Bahman Mīrzā 蔵書 *『集史』第1巻「モンゴル史」, 「ラシード史統編」, 「ムザッファル朝史」, 「クルト朝史」, 『勝利の書』, 「勝利の書統編」のみ
6	Vienna, Austrian National Library, Ms. Mxt. 327 (Flügel 1977: 181)* : 36.5x24cm (25.6x17cm), 27行, 60葉 *「ラシード史統編」のみ

*タウアーは Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Hekimoğlu ‘Alī Paşa 703 を『選集』の手稿本として紹介しているが (Tauer 1931: 99), 内容は『集史』第1巻「モンゴル史」で, 手稿本の形状や内容などから, この手稿本を『選集』の手稿本とする積極的な理由は見出せなかった。それ故, 本稿では『選集』の手稿本としては数えない。

*ブレーゲルは Tehran, University Library, Ms. 2486 を『選集』の手稿本として紹介しているが (Bregel 1972, Vol. 1: 345), 内容を確認したところ, 『清浄園 *Rawḍat al-Ṣafā*』の手稿本であることが判明した。

表4『歴史集成』現存手稿本

第1巻	
1	London, British Library, Ms. Or. 2774 (Rieu 1895: 16b-18a)* : 15世紀, 33x24cm (24x17cm), 20行, 369葉
2	Mashhad, Āstān-e Qods Library, Ms. 12803 (Āṣif-Fikrat 1369kh: 497)* : 16-17世紀?, 29x20.5cm, 488葉
3	Tehran, University Library, Ms. 5766 (Dānish-pazhūh 1357-64kh, Vol. 16: 85)* : 12 / 18世紀, 33x20cm (26x13cm), 29行, 217葉
4	Tehran, Majles Library, Ms. 3279 (Hā'irī 1347kh: 886-887)* : 1244年ラマダーン月 / 1829年, 30.5x22cm, 29行, 215葉
5	Tehran, University Library, Ms. 8954 (Dānish-pazhūh 1357-64kh, Vol. 17: 261)* : 1253 / 1837/8年, 36x22cm (26x15cm), 29行, 227葉
第2巻	
6	Cambridge, University Library, Ms. G9(12) (Browne 1932: 92)* : 829年シャアバーン月15日 / 1426年6月22日, 31x22cm (24.4x17.5cm), 29行, 482葉, 書写地 Hirāt
7	Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Revan Köşkü 1529 (Tauer 1931: 102; Karatay 1961: 64) : 1043 / 1633/4年, 33.5x24.5cm (24.5x17cm), 20行, 270葉, 写字生 Khālīd b. Ismā'īl

8	Tehran, Majles Library, Ms. 257 (I'tiṣāmī 1311kh: 143-145)* : 1297 / 1879/80 年, 36x23cm, 27 行, 560 葉
9	Vienna, Austrian National Library, Ms. Mxt. 454 (Flügel 1977: 174)* : 19 世紀?, 25x15cm (16x8cm), 19 行, 20 葉
10	Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Ayasofya 3035 (Tauer 1931: 100; Ḥusaynī 1390kh: 296)* : 書写年不明, 34.1x24.5cm (23.4x16.4cm), 21 行, 792 葉 *第2章「正統カリフ史」, 第3章「ウマイヤ朝史」, 第4章「アッバース朝史」のみ
第1-2 卷	
11	Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Ayasofya 3353 (Tauer 1931: 100; Ḥusaynī 1390kh: 373)* : 15 世紀前半, 34.1x25.8cm (23.6x17.1cm), 21 行, 676 葉, 旧 Shāh-rukh 蔵書 *第2 卷第1 章「ムハンマド伝」まで
12	St. Petersburg, National Library, Ms. Dorn 268 (Dorn 1852: 267-269)* : 15 世紀前半, 41.5x28cm (29.6x21cm), 29 行, 695 葉, 旧 Bāysunghur 蔵書
第3 卷	
13	Tehran, National Library, Ms. F.2527 (Anwār 1365-79kh, Vol. 6: 35-36; Hājī Sayyid Jawādī 1380kh: xxv-xxvii)* : 15 世紀, 34x25cm (24x17cm), 29 行, 432 葉 *手稿本 16 と揃いで作られた手稿本?
14	Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Mehmed Murād 1465 (Tauer 1931: 101)* : 15 世紀?, 35.5x27cm (26.5x20cm), 29 行, 369 葉
15	Tehran, Farhād Mu'tamid Library, Ms. 65 (Dānish-pazhūh & Afshār 1342kh: 216a) : 1281 年シャウワール月 / 1865 年, 26.5x17cm (10.5x8cm), 25 行
第4 卷	
16	Tehran, Malek Library, Ms. 4166 (Afshār & Dānish-pazhūh 1352-80kh, Vol. 4: 730; Hājī Sayyid Jawādī 1380kh: xxv)* : 1430 年, 34.5x25.6cm (25x17cm), 29 行, 392 葉, 旧 Shāh-rukh 蔵書? *手稿本 13 と揃いで作られた手稿本?
17	Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Fatih 4370/1 (Tauer 1931: 100-101)* : 15 世紀前半, 35x26.5cm (23.5x18cm), 21 行, 605 葉, 旧 Shāh-rukh 蔵書
18	Oxford, Bodleian Library, Ms. Elliot 422 (Ethé 1889: 90b)* : 書写年不明, 24x15.5cm (15.6x8.9cm), 17 行, 446 葉
第3-4 卷	
19	Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1659 (Karatay 1961: 38)* : 15 世紀, 41x31cm, 29 行, 655 葉
20	Tehran, Malek Library, Ms. 4163 (Afshār & Dānish-pazhūh 1352-80kh, Vol. 4: 730)* : 1272 / 1855/6 年, 42.3x26.4cm, 41 行, 499 葉, 写字生 Muḥammad Āqā Bābā Shāhmīrzādī, 旧 Bahā' al-Dawla 蔵書

*手稿本 15 は散逸してしまった可能性が高く, 本稿執筆時点で所在を確認できていない。

表5 『改訂版集史』現存手稿本

1	Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1653 (Karatay 1961: 38; Inal 1965: 41-44)* : 829年シャアバーン月／1426年頃, 54.2x37.7cm (31.1x23.2cm), 35行, 435葉, 著者 Ḥāfiẓ-i Abrū 直筆, 旧 Shāh-rukh 蔵書, 写本絵画有 (142画) ○ハーフィズ・アブルー『歴史精髓』と登録
2	Paris, National Library, Ms. Suppl. persan 160 (Blochet 1905-34, Vol. 1: 209-210)* : 829年ムハッラム月6日／1425年11月18日?(Hazine 1653手稿本の第1部跋文の書写年を書き写した年記で, 本手稿本の書写年でない可能性有), 33x20cm, 25行, 227葉, 写本絵画有 *第1部まで ○ハーフィズ・アブルー『歴史精髓』と登録
3	Lahore, Punjab University, Ms. Pe I 55 (Nawshāhī 1390kh: 1136)* : 16世紀, 35.5x25cm (26.7x17cm), 23行, 681葉 ○ハーフィズ・アブルー『集史』:『歴史精髓』と登録
4	Tehran, Majles Library, Ms. 9078 (Ḥakīm 1390kh: 711a-712a)* : 10 / 16世紀, 35.4x24.2cm (28x17.5cm), 25行, 360葉 ○ラシード『集史』と登録
5	Tehran, National Museum of Iran, Ms. 3723 (Riyāḍī 1374kh: 182)* : 16世紀, 48x35cm, 28行, 約335葉, 旧サフィー廟蔵書 ○ハーフィズ・アブルー『スルターンの歴史集成』と登録
6	St. Petersburg, National Library, Ms. PNS57 (Kostigov 1973: 221)* : 16-17世紀?, 38x24.5cm (30.5x18.5cm), 30行, 332葉, 写本絵画有 (93画) ○ハーフィズ・アブルー『歴史集成』と登録
7	Islamabad, National Library of Pakistan, Ms. 22 (Anon. 1998: 14; Ḥusayn 1972: 26-27) : 11 / 17世紀, 24x16.5cm, 25行, 413葉 ○ラシード『集史』と登録
8	St. Petersburg, Institute of Oriental Manuscripts, Ms. C802 (Miklukho-Maklai 1975: 51-54)* : 17世紀, 28.5x19.5cm (20x12.5cm), 25行, 489葉, 写本絵画有 ○『集史』と登録
9	Tehran, Majles Library, Ms. 7957 (Ṣadrāʾī Khuʾī 1376kh: 432)* : 1161年シャアバーン月17日／1748年8月12日, 26x15cm, 17行, 318葉 ○ハーフィズ・アブルー『スルターンの歴史集成』=『歴史精髓』=『集史統編』と登録
10	Tehran, National Library, Ms. F.1685 (Anwār 1365-79kh, Vol. 4: 159-160)* : 1232 / 1816/7年, 34x21cm (24.5x14cm), 21行, 671葉, 写字生 Ḥusayn b. Ḥājji ʿAlī-naqī Durūsī ○『ハーフィズ・アブルーの歴史』と登録
11	St. Petersburg, National Library, Ms. PNS58 (Kostigov 1973: 220-221)* : 1236年第2ジュマダー月10日／1821年3月15日, 33x22cm (25.5x15cm), 24行, 578葉, 写字生 Ibn ʿAbd al-Jawād Muḥammad Ṭāhir(サフィー廟の司書), 書写地アルダビール ○ハーフィズ・アブルー『歴史集成』と登録
12	Tehran, National Library, Ms. F.92 (Anwār 1365-79kh, Vol. 1: 78)* : 1248 / 1832/3年?, 30.5x21cm (21x12cm), 23行, 614葉 ○『ハーフィズ・アブルーの歴史』と登録

13	Qom, Mar'ashī Najafī Library, Ms. 12220 (Mar'ashī Najafī 1382kh: 32)* : 1265 年第 1 ジュマード月 / 1849 年, 33x20.5cm (25.5x12.5cm), 23 行, 382 葉, 書写地アゼルバイジャン *「イスラーム史」まで ○『ハーフィズ・アブールの歴史』=『歴史精髓』と登録
14	St. Petersburg, Institute of Oriental Manuscripts, Ms. E5 (Miklukho-Maklai 1975: 54)* : 1267 年ラジャブ月 22 日 / 1851 年 5 月 23 日, 41.5x25cm (31.5x17cm), 35 行, 212 葉, 写字生 Aḥmad Ḥasan Munshī Iṣfahānī *「イスラーム史」まで ○『集史』と登録
15	Tehran, Malek Library, Ms. 4356 (Afshār & Dānish-pazhūh 1352-80kh, Vol. 4: 730)* : 1272 年第 2 ジュマード月 7 日 / 1856 年 2 月 14 日, 35x22cm, 29 行, 372 葉, 旧 'Aḍud al-Dawla Sulṭān Aḥmad Mīrzā 蔵書 ○ハーフィズ・アブール『スルターンの歴史集成』と登録
16	Tehran, Majles Library, Ms. 9447 (Bābulī 1388kh: 133b-134a)* : 1279 年 / 1862/3 年, 37x23cm (27x14.5cm), 31 行, 379 葉, 写字生 Muḥammad Kāzīm b. Muḥammad Amīn b. Ḥājji Mahdī-qulī Sarābī (Tabrīzī), 旧 Mīrzā Sa'īd Khān 蔵書 ○『スルターンの歴史集成』=『歴史精髓』=『ハーフィズ・アブールの歴史』と登録
17	Tehran, National Library, Ms. F.1575 (Anwār 1365-79kh, Vol. 4: 67-68)* : 1282 年第 1 ジュマード月 7 日 / 1865 年 9 月 28 日以降, 45x30cm (32x17cm), 32 行, 448 葉 ○『ハーフィズ・アブールの歴史』と登録
18	Tehran, Majles Library, Ms. Ṭabāṭabā'ī 255 (Hā'irī 1381kh: 180)* : 13 / 19 世紀, 35x21cm (26x13.5cm), 27 行, 521 葉 *序文の形が異なる ○ハーフィズ・アブール『歴史集成』=『集史続編』と登録
19	Tehran, Malek Library, Ms. 4129 (Afshār & Dānish-pazhūh 1352-80kh, Vol. 4: 730)* : 13 / 19 世紀, 29.3x20.7cm, 23 行, 76 葉 *要約 ○ハーフィズ・アブール『スルターンの歴史集成』と登録

*パキスタン国立図書館(イスラマバード)閲覧室備え付けの手稿本目録については、東京大学大学院の水上遼氏が現地で撮影した画像データを参照した。この手稿本目録により、現在の所蔵先が確認できていなかったシャフィウ M. Shafī 旧蔵手稿本の一部が国立図書館に移管されている事実を確認できた。目録の画像データを提供して頂いた水上氏に記して謝意を表したい。

表6 Hazine1653 手稿本の章構成

序文	1b-5a	バフラー・ブン・バフラー ム	117b
神・預言者への称賛	1b-2a	バフラー・ブン・バフラー ム・ブン・バフラー	117b
序	2a-2b	ナルスィー	117b-118a
シャー・ルフへの称賛	2b-3a	フルムズ	118a
執筆の動機	3a-3b	シャープール・ズルアクター フ	118a-119b
歴史の定義	3b	アルダシール	119b
歴史学とは	3b-4a	シャープール・ブン・シャ ープール	119b-120a
歴史学の効用	4a-5a	バフラー・ブン・シャ ープール	120a
目次	5b-6a	ヤズドギルド・アスィーム	120a-122b
序：天地創造～アダムの死	6b-10a	バフラー・ゲール	122b-125a
第1章 (bāb)：ノア以前の預 言者・古代ペルシア史	10a-27b	ヤズドギルド・ブン・バフ ラー	125a
第1節 (faṣl)：ノア以前の預 言者	10a-13a	フルムズ	125b
第1項 (dhikr)：セツとそ の末裔	10a-10b	フィールーズ	125b-126a
第2項 (dhikr)：エノク	10b-11a	バラーシュ	126a-127a
第3項 (dhikr)：ノア	11a-13a	クバード	127a
第2節 (faṣl)：ピーシュダー ド朝	13a-27b	ジャーマースブ	127a-127b
カユーマルス	13a-15b	クバード	127b-128a
フーシャング	15b-16b	ヌーシルワーン	128a-133a
タフムーラス	17a-18a	フルムズ	133b-136b
ジャムシード	18a-20a	フスラウ・バルウィーズ	136b-137b
ダッハーク	20a-21a	バフラー・チュービーン	137b-139b
ファリードゥーン	21a-23a	フスラウ	139b-144b
マヌーチフル	23a-25b	シールーヤ	144b-146a
ナウザル	25b-26b	アルダシール	146a
アフラー・スィヤープ	26b-27a	シャフリ・イーラーン	146a
ザウ	27a-27b	トゥーラーン・ドゥフト	146b
第2章 (bāb)	27b-92a	ジュシュナスバンダ	146b

ハーフィズ・アブラーの歴史編纂事業再考

第1節 (jumla)：預言者伝	27b-74a	フスラウ・ブン・クバード	146b
第1項 (dhikr)：ノアの子孫	28a-30b	アーザルミー・ドゥフト	146b-147a
第2項 (faṣl)：アブラハム	30b-37a	キスラー	147a
第3項 (faṣl)：アブラハムの子孫	37a-74a	ファッルフ・ザード	147a
第2節 (jumla)：カヤーン朝	74a-92a	ヤズドギルド	147a-148a
カイクバード	74b-76a	第2部 (qism)：イスラーム史	149a-266b
カイカーウス	76a-78b	第1節 (ṭabaqa)：ムハンマド伝	149a-180a
カイフスラウ	78b-80b	第2節 (maqālat)：正統カリフ	180a-198b
ルフラースブ	80b-88a	アブー・バクル	180a-182b
バフマン	88a-89b	ウマル	182b-185b
フマーイ	90a-90b	ウスマーン	185b-189b
ダーラーブ	90b-91a	アリー	189b-198a
ダーラー	91a-92a	ハサンに対するバイア	198a-198b
第3章 (bāb)	92a-110a	第3節 (maqālat)：ウマイヤ朝	198b-219a
第1節 (faṣl)：アレクサンドロス伝	92a-95b	第4節 (maqālat)：アッバース朝	219a-266b
第2節 (faṣl)：アレクサンドロス後の預言者	95b-100b	ガズナ朝史	267b-302a
第3節 (faṣl)：アシュカーン朝	101a-102b	セルジューク朝史	302b-328a
第4節 (faṣl)：アレクサンドロス後のローマ・アラブの王	102b-110a	ホラズムシャー朝史	329b-338b
第4章 (bāb)：サーサーン朝	110a-148a	サルグル朝史	339a-341b
アルダシール	110b-114b	イスマール派史	342b-375a
シャープール	114b-116a	オグズ史	375b-391a
フルムズ	116a-116b	中国史	391b-410a
バフラーム・ブン・フルムズ	116b-117b	フランク史	411a-421b
		インド史	422b-435b

* 1314年に書写された古いテキストの部分については網掛けをして明示した(但し、この中にもハーフィズ・アブラーが加筆・修正した箇所が数葉含まれている)。

表 7 Hazine 1653 手稿本と『歴史集成』の序文の比較

H1653: 3a-3b	Majma' /A3353: 7b-8b
<p>[۱۳۴] ذکر سبب تألیف کتاب</p> <p>حضرت با رفعت شاه و شاهزاده اعظم، مکمل معالی الامور و جلائل الشیم، مخدوم عالم و عالمیان، خلاصه نوع انسان، نور حدقة السلطنة، نور حدیقة المملكة، در درج السلطنة و الجلال، درى برج العظمة و الاقبال، نگین خاتم شهریارى، و لعل کأن کامکارى، یاقوت افسر سرورى و واسطه عقد صفدرى، <u>ناشر لواء العدل و الاحسان</u>، باسط <u>جناح الامن و الامان</u>، خدیگان هنرپرور، شهریار فضل گستر،</p> <p>شاهی که مملکت ز جمالش کمال یافت عالم ز نور رای منیرش جمال یافت فی دیده سپهر مرو را نظیر دید فی چشم روزگار مرو را مثال یافت</p> <p>– نفذ الله اوامره فی المشرقین و امضى احکامه فی الخافقین – از شفق و اهتمامی که به مطالعه تواریخ و آثار گذشتگان دارد و در سیر و انساب و احوال امم و مجاری ملوک ترک و عرب و عجم و شعب آن علم خوضی تمام فرموده و بر تصاریف احداث واقف گشته، بنده کمترین را سعادت حقیقی مساعدت نمود. و حضرت شاهزاده به خطاب مستطاب سرافراز گردانید. و به لفظ وحی آثار فرمود که کتابی می باید نبشت مشتمل بر ذکر انبیاء و اولیاء و محتوی بر آثار و اخبار ملوک و سلاطین ماضیه و امم سالفه و کیفیت زمان متقدم و چگونگی قرون متقدم، چنانکه از کلیات وقایع و مشاهیر حکام از زمان آدم صفی – صلوات الرحمن علیه – تا به ایام همایون و روزگار میمون که امداد آن به امتداد روزگار متصل باد، چیزی فوت نشود و پسندیده نظر ارباب دانش و ستوده طبع و محبوب و</p>	<p>[۱۳۵] ذکر سبب تألیف کتاب</p> <p>حضرت با رفعت شاه و شاهزاده اعظم، مکمل معالی الامور و جلائل الشیم، مخدوم عالم و عالمیان، خلاصه نوع انسان، نور حدقة السلطنة، نور حدیقة المملكة، در درج السلطنة و الجلال، درى برج العظمة و الاقبال، نگین خاتم شهریارى، و لعل کأن کامکارى، یاقوت افسر سرورى و واسطه عقد صفدرى، رافع لواء العدل و الاحسان، باسط اجنحة الامن و الامان، خدیگان هنرپرور، شهریار فضل گستر،</p> <p>الابیات الفارسیة</p> <p>شاهی که مملکت ز جمالش کمال یافت عالم ز نور رای منیرش جمال یافت فی دیده سپهر مرو را نظیر دید فی چشم روزگار مرو را مثال یافت</p> <p>– نفذ الله اوامره فی المشرقین و امضى احکامه فی الخافقین – از شفق و اهتمامی که به مطالعه تواریخ و آثار گذشتگان دارد و در سیر و انساب و احوال امم و مواقف و مجاری ملوک ترک و عرب و عجم و شعب آن علم خوضی تمام فرموده و بر تصاریف احداث واقف گشته، بنده کمترین را سعادت حقیقی مساعدت نمود. و حضرت شاهزاده به خطاب مستطاب سرافراز گردانید. و به لفظ وحی آثار فرمود که کتابی می باید نبشت مشتمل بر ذکر انبیاء و اولیاء و محتوی بر آثار و اخبار ملوک و سلاطین ماضیه و امم سالفه و کیفیت زمان متقدم و چگونگی قرون متقدم، چنانکه از کلیات وقایع و مشاهیر حکام از زمان آدم صفی – صلوات الرحمن علیه – تا به ایام همایون و روزگار میمون که امداد آن به امتداد روزگار متصل باد، چیزی فوت نشود و پسندیده نظر ارباب دانش و ستوده طبع و محبوب و</p>

<p>و سیر النبی و تاریخ محمد جریر طبری و مروج الذهب و معادن الجوهر و شهنامه فردوسی</p> <p>[۳] و غیرهم انتخاب کرده شد. درین اثناء حضرت اعلا – خلد الله تعالی ملکه و سلطانه – فرمودند که کتاب رشیدی را که اولش ضایع شده بود تمام می باید ساخت. بنده کمینه به عرض رسانید که قسم اول این کتاب که از زمان آدم است – علیه السلام – تا ابتدای احوال حضرت رسالت – صلی الله علیه و سلم – چون این کتاب که حالا نیشته شده است بعد از مطالعه رشیدی و طبری و کامل و چند نسخه دیگر است، اگر از آنجا نقل کرده آید، اولی باشد. فرمودند که شاید. بنا بر این مقدمات ربع اول از آن کتاب که از بهر کتبخانه شاهزاده اعظم نیشته شده بود نقل افتاد. و قبل از شروع در مقصود فصلی در تعریف تاریخ و فواید آن ایراد کرده می آید تا مطالعه کنندگان را درین علم رغبت بیفزاید و از فایده خالی نباشد و هو اعلم.</p>	<p>و سیر النبی و تاریخ محمد جریر طبری و مروج الذهب و معادن الجوهر مصنف علی بن عبد الله مسعود الهذلی و شهنامه فردوسی و یمینی یمین و کامل التواریخ انیری موصلی و کتاب المعجم فی آثار ملوک العجم و سلجوقنامه ظهیری و طبقات ناصری جوزفانی و انوار الموعظ و الحكم فی اخبار ملوک العجم و جهان گشای عطا ملک جوینی و نظام التواریخ قاضی ناصر الدین ابو سعد بیضاوی و تاریخ وصاف عبد الله بن فضل الله بن ابی نعیم فیروزآبادی و جامع التواریخ رشیدی و گزیده حمد الله مستوفی قزوینی و تاریخ ابن العمید انتخاب کرده شد. و بعد از گزیده که از آن تاریخ قریب صد سال می شود درین فن کتابی که مشمتمل بر جمیع طوایف باشد کسی مدون نکرده است و اگر کرده بدین دیار نرسیده و مطالعه نیفتاده، به سبب آنکه بعد از [۴] انقضای ایام سلطان سعید ابو سعید – نور الله مرقده – پادشاهی ممکن که بر جمیع بلاد و امصار حکم او نافذ و جاری باشد نبود و بر هر طرفی از ممالک جمعی مستولی گشته دعوی استقلال و استبداد می کردند تا آن زمان که آفتاب دولت جهان گشای ...</p>
---	---

* Hazine 1653 手稿本において加筆・修正されている箇所には下線を引いた。

文献目録

- Dhayl-i Jāmi'*: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Dhayl-i Jāmi' al-Tawārīkh*, Istanbul, Nuruosmaniye Library, Ms. 3271.
- Dhayl-i Zafar*: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Dhayl-i Zafar-nāma*, Istanbul, Nuruosmaniye Library, Ms. 3267/2.
- Faṣīḥī*: Faṣīḥ-i Khwāfī, *Mujmal-i Faṣīḥī*, ed. by M. Nāji Naṣrābādī, 3 vols., Tehran, 1386kh.
- Gulistān*: Qāḍī Mīr Aḥmad b. Sharaf al-Dīn Ḥusayn Munshī Qumī, *Gulistān-i Hunar*, ed. by A. Suhaylī Khwānsārī, n.d.
- H1653: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Zubdat al-Tawārīkh*, Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1653.
- Ḥabīb*: Khwānd-amīr, *Ḥabīb al-Siyar*, ed. by M. Dabīr-siyāqī, 4 vols., Tehran, 1362kh.
- Jāmi'*: Rashīd al-Dīn Faḍl Allāh Hamadānī, *Jāmi' al-Tawārīkh*, ed. by M. Rawshan & M. Mūsawī, 4 vols., Tehran, 1373kh.
- Kashf*: Ḥājī Khalīfa, *Kashf al-Zunūn 'an Asāmī al-Kutub wa al-Funūn*, ed. by G. Flügel, 6 vols., Beirut, 1990.
- Majālis*: Nūr Allāh Shūshtarī, *Majālis al-Mu'minīn*, ed. by A. 'Abd Manāfī, 2 vols., Tehran, 1377kh.
- Majma'*/A3353: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Majma' al-Tawārīkh*, Vols. 1-2, Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Ayasofya 3353.
- Majma'*/G9: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Majma' al-Tawārīkh*, Vol. 2, Cambridge, University Library, Ms. G9(12).
- Majma'*/M1465: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Majma' al-Tawārīkh*, Vol. 3, Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Meḥmed Murād 1465.
- Majmū'a*: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Majmū'a-yi Ḥāfiẓ-i Abrū*, Istanbul, Topkapı Palace Library, Ms. Bağdad Köşkü 282.
- Majmū'a*/D919: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Majmū'a-yi Ḥāfiẓ-i Abrū*, Istanbul, Süleymaniye Library, Ms. Dāmād Ibrāhīm Paşa 919.
- Maṭla'*: Kamāl al-Dīn 'Abd al-Razzāq Samarqandī, *Maṭla'-i Sa'dayn wa Majma'-i Baḥrayn*, ed. by 'A. Nawā'ī, 4 vols., Tehran, 1372kh-1383kh.
- Nuzhat*: Ḥamd Allāh Mustawfī Qazwīnī, *Nuzhat al-Qulūb*, ed. by G. Le Strange, Leiden &

London, 1915.

Shāh-rukh: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Tārīkh-i Shāh-rukh*, London, British Library, Ms. IO Islamic 171.

SP160: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Zubdat al-Tawārīkh*, Paris, National Library, Suppl. persan 160.

Tārīkh: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Jughrāfiyā-yi Ḥāfiẓ-i Abrū*, ed. by Ṣ. Sajjādī, 3 vols., Tehran, 1375kh-1378kh.

Tārīkh/F155: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Tārīkh-i Ḥāfiẓ-i Abrū*, Oxford, Bodleian Library, Ms. Fraser 155.

Tārīkh/Krawulsky: *Horāsān zur Timuridenzeit nach dem Tārīḥ-e Ḥāfeẓ-e Abrū*, ed. by D. Krawulsky, Vol. 1, Wiesbaden, 1982.

Tārīkh/Or1577: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Tārīkh-i Ḥāfiẓ-i Abrū*, London, British Library, Ms. Or. 1577.

Zubdat: Ḥāfiẓ-i Abrū, *Zubdat al-Tawārīkh*, ed. by S. K. Ḥājj Sayyid Jawādī, 4 vols., Tehran, 1380kh.

Afshār, Ī. & Dānish-pazhūh, M. T. 1352-80kh: *Fihrist-i Kitāb-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Millī-yi Malik*, 13 vols., Tehran.

Anon. 1998: *Fihrist-i Makhtūṭāt-i 'National Library of Pakistan'*, Islamabad, 1998.

Anwār, 'A. 1365-79kh: *Fihrist-i Nusakh-i Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Millī-yi Īrān: Kutub-i Fārsī*, Vols. 1-6, Tehran.

Āṣif-Fikrat, M. 1369kh: *Fihrist-i Alifbā'ī-yi Kutub-i Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Markazī-yi Āstān-i Quds-i Raḍawī*, Mashhad.

Ātābāy, B. 2536sh: *Fihrist-i Tārīkh, Safar-nāma, Siyāhat-nāma, Rūz-nāma wa Jughrāfiyā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Salṭanatī*, Tehran.

Ateş, A. 1999: "Cāmi' al-Tavārīḥ'in Gaznelilere dāir Bölümü," in Raşīd al-Dīn Faẓlallāh, *Cāmi' al-Tavārīḥ: Sultan Mahmud ve Devrinin Tarihi*, ed. by A. Ateş, Ankara, 9-29.

Bābulī, A. Ḥ. 1388kh: *Fihrist-i Nuskhā-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, Vol. 30, Tehran.

Barthold, W. 1927(1993²): "ḤĀFĪẒ-I ABRŪ," *E. J. Brill's First Encyclopaedia of Islam 1913-1936*, Vol. 3, 213a-213b.

Bayānī, Kh. 1319kh: "Ḥāfiẓ-i Abrū Biḥdādīnī ast," *Āmūzish wa Parwarish* 10/6-7, 62-64.

Bayānī, Kh. 1349kh: "Ḥāfiẓ-i Abrū wa Ḥaqīqat wa Fawāyid-i 'Ilm-i Tārīkh az Naẓar-i Way," *Bar-rasī-hā-yi Tārīkhī* 5/4, 233-254.

Bayānī, Kh. 1350kh (a): "Shāh-nāma-yi Bāysunghurī wa Ḥāfiẓ-i Abrū," *Bar-rasī-hā-yi*

- Tārīkhī* 6/3, 159-178.
- Bayānī, Kh. 1350kh (b): "Sharḥ-i Ḥāl wa Zindagī wa Āthār wa Tālīfāt-i Ḥāfiẓ-i Abrū," in Ḥāfiẓ-i Abrū, *Dhayl-i Jāmi' al-Tawārīkh-i Rashīdī*, ed. by Kh. Bayānī, Tehran, 6-61.
- Bloch, E. 1905-34: *Catalogue des manuscrits persans de la bibliothèque nationale*, 4 vols., Paris.
- Bregel, Yu. E. 1972: *Persidskaia Literatura*, 3 vols., Moscow.
- Browne, E. G. 1932: *A Descriptive Catalogue of the Oriental Mss. Belonging to the Late E. G. Browne*, Cambridge.
- Dānīsh-pazhūh, M. T. 1339kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Dānīsh-kada-yi Adabīyāt*, Tehran.
- Dānīsh-pazhūh, M. T. 1357-64kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Markazī wa Markaz-i Asnād-i Dānīsh-gāh-i Tīhrān*, Vols. 16-18, Tehran.
- Dānīsh-pazhūh, M. T. & Afshār, Ī. 1342kh: *Nashrīya-yi Kitāb-khāna-yi Markazī-yi Dānīsh-gāh-i Tīhrān: Darbāra-yi Nuskha-hā-yi Khaṭṭī*, Vol. 3, Tehran.
- DİA 1997: "HÂFİZ-İ EBRÛ," *Türkiye Diyanet Vakfı İslâm Ansiklopedisi*, Vol. 15, 89a-90a.
- Dorn, R. 1852: *Catalogue des manuscrits et xylographes orientaux de la Bibliothèque impériale publique de St. Pétersbourg*, St. Petersburg.
- Ethé, H. 1889: *Catalogue of the Persian, Turkish, Hindūstānī, and Pushtū Manuscripts in the Bodleian Library*, Vol. 1, Oxford.
- Ettinghausen, R. 1955: "An Illuminated Manuscript of Ḥāfiẓ-i Abrū in Istanbul. Part I," *Kunst des Orients* 2, 30-44.
- Flügel, G. 1977: *Die arabischen, persischen, türkischen Handschriften der Kaiserlichen und Königlichen Hofbibliothek zu Wien*, Vol. 2, Hildesheim & New York.
- Ghāsian, M. R. 2015: "The 'Historical Style' of Painting for Shāhrukh and Its Revival in the Dispersed Manuscript of *Majma' al-Tawārīkh*," *Iranian Studies* 48/6, 871-903.
- Ḥā'irī, 'A. 1347kh: *Fihrist-i Kitāb-khāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Millī*, Vol. 10/2, Tehran.
- Ḥā'irī, 'A. 1381kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī: Kitāb-hā-yi Ihdā-yi Sayyid Muḥammad Ṣādiq Ṭabāṭabā'ī*, Vol. 24, Tehran.
- Ḥājj Sayyid Jawādī, S. K. 1380kh: "Muqaddama-yi Muṣaḥḥiḥ," in Ḥāfiẓ-i Abrū, *Zubdat al-Tawārīkh*, ed. by S. K. Ḥājj Sayyid Jawādī, Vol. 1, Tehran, v-lxvi.
- Ḥakīm, M. Ḥ. 1390kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, Vol. 29/2, Tehran.
- Ḥusayn, M. B. 1972: *Fihrist-i Makhṭūṭāt-i Shafī' (ba Fārsī wa Urdū wa Panjābī) dar*

Kitāb-khāna-yi Prūfīsūr Duktur Mawlawī Muḥammad Shafī', Lahore.

Ḥusaynī, A. 1355kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi 'Umūmī-yi Ḥadrat-i Āyat Allāh al-'Uzmā Najafī Mar'ashī*, Vol. 5, Qom.

Ḥusaynī, M. T. 1390kh: *Fihrist-i Dast-niwīs-hā-yi Fārsī-yi Kitāb-khāna-yi Ayāṣūfiyā (Istānbūl)*, Tehran.

Inal, S. G. 1965: *The Fourteenth-Century Miniatures of the Jāmi' al-Tavārīkh in the Topkapı Museum in Istanbul, Hazine Library No. 1653*, Ph.D. Dissertation, University of Michigan.

İtişāmī, Y. 1311kh: *Fihrist-i Kitāb-khāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Millī*, Vol. 2, Tehran.

Karatay, F. E. 1961: *Topkapı Sarayı Müzesi Kütüphanesi Farsça Yazmalar Kataloğu*, Istanbul.

Kostigov, G. I. 1973: *Persidskie i Tadzhikskie Rukopisi "Novoi Serii" Gosudarstvennoi Publichnoi Biblioteki im. M. E. Saltikova-Shedrina*, Leningrad.

Krawulsky, D. 1982: "Einleitung," in *Ḥorāsān zur Timuridenzeit nach dem Tārīḥ-e Ḥāfez-e Abrū*, ed. by D. Krawulsky, Vol. 1, Wiesbaden, 13-23.

Lambton, A. K. S. 1978: "Early Timurid Theories of State: Ḥāfiẓ Abrū and Niẓām al-Dīn Ṣāmī," *Bulletin d'études orientales* 30, 1-9.

Lentz, Th. W. & Lowry, G. D. 1989: *Timur and the Princely Vision: Persian Art and Culture in the Fifteenth Century*, Los Angeles.

Leoni, F. 2009: "A Folio from a Timurid Historical Manuscript in the Princeton University Art Museum," *Record of the Art Museum* 68, 60-67.

Mar'ashī Najafī, M. 1382kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Kitāb-khāna-yi Buzurg-i Ḥadrat-i Āyat Allāh al-'Uzmā Mar'ashī Najafī*, Vol. 31, Qom.

Melville, Ch. 1998: "Ḥamd Allāh Mustawfī's *Ẓafarnāmah* and the Historiography of the Late Ilkhanid Period," in *Iran and Iranian Studies*, ed. by K. Eslami, Princeton, 1-12.

Meredith-Owens, G. M. 1968: *Handlist of Persian Manuscripts 1895-1966*, London.

Miklukho-Maklai, N. D. 1975: *Opisanie Persidskikh i Tadzhikskikh Rukopisei Instituta Vostokovedeniia*, Moscow.

Mudarrisī Zanjānī, M. 1364kh: "Muqaddama-yi Muṣaḥḥiḥ," in *Ḥāfiẓ-i Abrū, Majma' al-Tawārīkh al-Sulṭāniya*, ed. by M. Mudarrisī Zanjānī, Tehran, 1-57.

Munzawī, A. n.d.: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Fārsī*, Vol. 6, Tehran.

Nawshāhī, 'A. 1390kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khaṭṭī-yi Fārsī-yi Kitāb-khāna-yi Markazī-yi Dānish-gāh-i Panjāb-i Lāhūr (Pākistān)*, Vol. 2, Tehran.

- Rieu, Ch. 1879-83: *Catalogue of the Persian Manuscripts in the British Museum*, 3 vols., London.
- Rieu, Ch. 1895: *Supplement to the Catalogue of the Persian Manuscripts in the British Museum*, London.
- Riyādī, M. R. 1374kh: *Fihrist-i Mīkrūfīlm-hā wa Nusakh-i Khattī-yi Mūza-yi Millī-yi Īrān*, Tehran.
- Rosen, V. 1886: *Les manuscrits persans de l'institut des langues orientales*, St. Petersburg.
- Ṣadrāī Khuī, 'A. 1376kh: *Fihrist-i Nuskha-hā-yi Khattī-yi Kitāb-khāna-yi Majlis-i Shūrā-yi Islāmī*, Vol. 26, Tehran.
- Sajjādī, Ṣ. 1375kh: "Pīsh-guftār-i Muṣaḥḥiḥ," in Ḥāfiẓ-i Abrū, *Jughrāfiyā-yi Ḥāfiẓ-i Abrū*, ed. by Ṣ. Sajjādī, Vol. 1, Tehran, 15-38.
- Semenov, A. A. 1963: *Sobranie Vostochnykh Rukopisei Akademii Nauk Uzbekskoi SSR*, Vol. 6, Tashkent.
- Storey, C. A. 1972: *Persian Literature: A Bio-bibliographical Survey*, Vol. 2/1, London.
- Subtelny, M. E. & Melville, Ch. 2003: "ḤĀFEẒ-E ABRŪ," *Encyclopædia Iranica*, Vol. 11, 507b-509b.
- Tauer, F. 1931: "Les manuscrits persans historiques des bibliothèques de Stamboul," *Archiv Orientalní* 3, 87-118.
- Tauer, F. 1963: "Ḥāfiẓi Abrū sur l'historiographie," in *Mélanges d'orientalisme offerts a Henri Massé*, Tehran, 10-25.
- Tauer, F. 1965: "Timurlular Devrinde Tarihçilik," *Belleten* 29, 49-69.
- Tauer, F. 1971: "ḤĀFIẒ-I ABRŪ," *The Encyclopaedia of Islam*, New Edition, Vol. 3, 57b-58a.
- Woods, J. E. 1987: "The Rise of Tīmūrid Historiography," *Journal of Near Eastern Studies* 46/2, 81-108.
- 大塚修 2014「史上初の世界史家カーシャニー：『集史』編纂に関する新見解」『西南アジア研究』80, 25-48.
- 川口琢司 2007『ティムール帝国支配層の研究』北海道大学出版会.
- 川口琢司 2011「ハーフィズ・アブールの地理書におけるマー・ワラー・アンナフルの条について」近藤信彰(編)『ペルシア語文化圏史研究の最前線』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 61-85.

Ḥāfiẓ-i Abrū's Historiographical Enterprise Reconsidered: With a Special Reference to the Revised Edition of the *Jāmi' al-Tawārīkh*

by Osamu OTSUKA

The Timurid historian Ḥāfiẓ-i Abrū (d. 1430) is famous as the author of many Persian historical works under the patronage of Shāh-rukḥ (r. 1409-47) and his prince Bāysunghur (d. 1433). Felix Tauer enumerated six works for Ḥāfiẓ-i Abrū as follows: 1. *Dhayl-i Jāmi' al-Tawārīkh*, 2. *Dhayl-i Ṣafar-nāma-yi Shāmī*, 3. *Tārīkh-i Shāh-rukḥ*, 4. *Tārīkh (Jughrāfiyā)*, 5. *Majmū'a*, and 6. *Majma' al-Tawārīkh*, and this enumeration has been commonly accepted by later researchers. However, as Tauer could not consult all surviving manuscripts of Ḥāfiẓ-i Abrū's works, he did not discuss one important manuscript, the Istanbul manuscript (Topkapı Palace Library, Ms. Hazine 1653), in the course of his complicated historiographical reconstruction.

This paper is the first attempt at a codicological study of the large number of surviving manuscripts of Ḥāfiẓ-i Abrū's works (over sixty-two manuscripts). By investigating almost all known manuscripts of Ḥāfiẓ-i Abrū's works, I identified that nineteen of them cannot be classified into the above-mentioned six works. Among these nineteen manuscripts, which are copies of Ḥāfiẓ-i Abrū's another historical work, the oldest one is the Istanbul manuscript. Although the Istanbul manuscript has been identified as the autograph of the *Majma' al-Tawārīkh* in most bibliographies of Persian works, this is, in fact, a manuscript that presents a work combining the *Majma' al-Tawārīkh* and the second volume of Rashīd al-Dīn (d. 1318)'s *Jāmi' al-Tawārīkh*. Ḥāfiẓ-i Abrū replaced the first part of the second volume of the *Jāmi' al-Tawārīkh*, which had been lost, with the first volume of the *Majma' al-Tawārīkh*. This manuscript can be considered as the revised edition of

the *Jāmi‘ al-Tawārīkh*. Its contents are as follows: 1. Preface (original), 2. History of pre-Islamic prophets and rulers (from the first volume of the *Majma‘ al-Tawārīkh*), 3. History of Muḥammad and the caliphates, History of Persian independent dynasties, and History of the people of the world (from the second volume of the *Jāmi‘ al-Tawārīkh*).

As the existence and characteristics of the revised edition of the *Jāmi‘ al-Tawārīkh* are not well known to researchers, this work was sometimes referred to as the *Jāmi‘ al-Tawārīkh* or sometimes as the *Majma‘ al-Tawārīkh*. Thus there is some confusion in previous studies that used this work. Therefore, I suggest that this work should be counted as an independent work by Ḥāfiẓ-i Abrū apart from the six works mentioned at the beginning. By categorizing this work as Ḥāfiẓ-i Abrū’s seventh historical work, we will be able to understand Ḥāfiẓ-i Abrū’s historiographical enterprise with more precision and to use his works more effectively for reconstructing the history of Persianate societies.